週刊 YEAR BOOK

1925
大正14年

# 日録20世紀

6/16
平成10年6月16日発行
(毎週1回発行)第2巻第22号
¥560
講談社

「治安維持法」と"弾圧の構図"
東京六大学野球リーグ戦にファン熱狂!
カメラの革命!「ライカ」誕生

## "娯楽の王様"ラジオ放送開始!

# 「JOAK、JOAKこちらは東京放送局」<br>一日五時間、英語講座からドラマまで<br>“娯楽の王様”ラジオ放送、始まる！

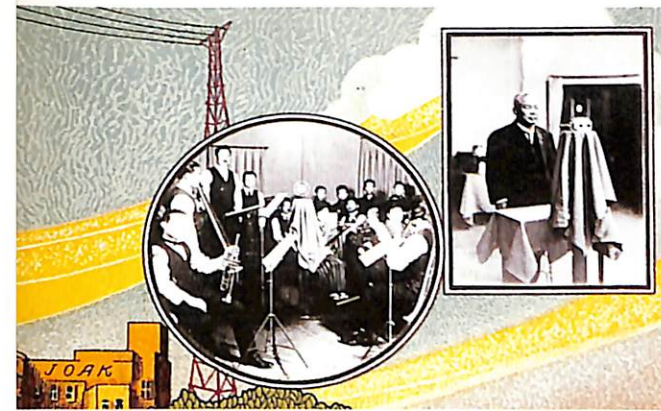
▲鉱石式受信機のレシーバーを分けあって聞く子どもたち。大正末期の東京数寄屋橋付近にて。　NHK提供

関東大震災の爪痕が東京のあちこちに残り、日比谷や上野などにまだ多くのバラックが残されていた大正一四年三月、日本初のラジオ放送が東京で始まった。この新しいメディアが一躍マスコミのヒーローに躍り出るのに、そんなに時間はかからなかった。教養講座からドラマまで盛りだくさんのラジオ放送は、またたく間に“娯楽の王様”になったのである。

## “オール借り物”だったラジオ放送の夜明け

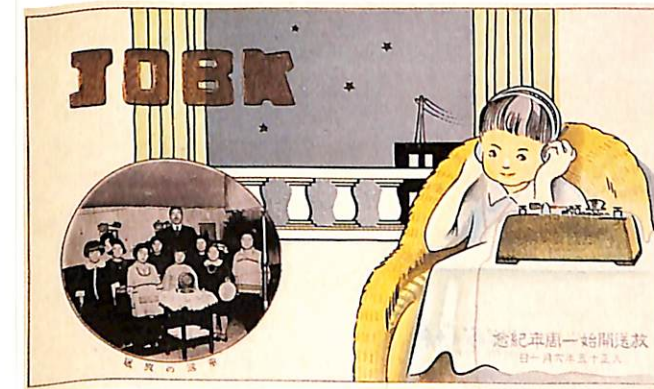
「JOAK、JOAK、こちらは東京放送局であります……」

「ジェーイ」「オーウ」「エーイ」「ケーイ」と遠くに呼びかけるような京田武男アナウンサー（三八）の静かで抑揚のついた声が、早春の東京の空に響いた。

大正一四年三月二二日の午前九時三〇分、東京・芝浦にある東京放送局の仮放送所から流れてきたこの声が、日本におけるラジオ放送の歴史的な第一声だった。午前一〇時に開始した式典では、後藤新平東京放送局総裁（六七）が「ラジオの力によってみんなが文化の恩沢に浴する

▲東京放送局の放送記念絵はがき。愛宕山の施設をバックに、当時の熱気あふれる放送風景を伝えている。　NHK放送博物館蔵

▶大正14年製の三球レフレックス受信機（山中電機製）。定価約50円。鉱石式に比べ、大変高価なものだった。　NHK提供

▼大阪放送局の放送開始一周年記念絵はがき。マンガ、標語などを公募し、セットにして売り出されたもの。　NHK放送博物館蔵

▲東京放送局開局記念のポスター。人気画家・樺島勝一の絵で話題を呼んだ。　NHK提供

▲ダブルボタン型マイクロホン。アメリカ製で、放送開始当時に使用されたもの。　NHK提供

▶本放送が開始された、大正一四年七月一二日の番組表。ラジオ劇「桐一葉」が人気を呼んだ。　NHK提供

◎表紙　受話器（レシーバー）を耳に、開局まもないラジオ放送を聴く女優の岡田嘉子（左）と梅村蓉子。　朝日新聞社

▲大正14年8月10日、大阪放送局の阿波踊りの放送風景。マイクの前で、出演者が実際に踊った。ラジオが始まった頃、こうした放送はすべて〝実演〟だった。「国際写真情報」／国際フォト（右下1点とも）

ことができる」と語り、桑山鉄男逓信次官は犬養毅逓信大臣（六九）の祝辞を代読した。

記念すべき第一日目の番組は、午前一一時三〇分の読売新聞ニュース、一一時五一分の新日本音楽演奏「さくら変奏曲」、午後一時三〇分の東京日日新聞（現・毎日新聞）ニュース、二時のネトケ・レーヴェ東京音楽学校教授による「ソプラノ独唱」、二時四〇分の哥沢芝金の唄「薄墨」など二曲。午後七時のニュースの後は歌劇「フィデリオ」の重唱などで、最後は八時五五分の「天気予報」だった。

電気店の店頭には、「祝放送開始」と墨で書かれた紙が貼られ、茶の間では、一家全員が受信機のラッパに耳をすました。放送一日目が終了すると、仮放送所に祝いの電報、電話が殺到。東京で三五〇〇件にすぎなかった月額一円の聴取契約数が、一日で三〇〇〇～五〇〇〇件もふえたという。詩人の萩原朔太郎（三八）は、初めてラジオを聞いた時の印象を次のように書いている。

「壊れた機械で傷だらけのレコードをかける時にそっくりで、絶えずガリガリという針音、ザラザラという雑音が響いてくる。歌に雑音が混じっているというよりむしろ雑音の中から歌が聞こえるという感じである」（『中央公論』一一月号）

日本に先駆けて、世界初のラジオ放送局がアメリカで開局したのは大正九年。軍用の無線電信技術を生かし、ウェスチングハウス電機会社がペンシルバニア州に設立した商業放送局だった。アメリカは、国内のラジオ熱が落ちつくと、欧州や日本にラジオ機器を輸出。大正一二～一三年頃には、日本でも逓信省や新聞社が放送実験を試みるようになっていた。

二年前の関東大震災で傷ついた庶民の強い要望もあって、大正一四年三月一日に東京放送局で仮放送を開始。さらに大阪（六月一日）や、名古屋（七月一五日）でも、すぐに放送局が誕生するのだが、その先陣を切る形となった東京のスタジオは東京高等工芸学校（現・東京工業大学）の書庫。準備が急場で進められたため、放送機は東京市電気研究所から、アンテナは逓信省からといったふうに〝オール借り物〟。日本におけるラジオの↖

▲大正14年8月19日、東京放送局の〝将棋実況中継〟。木村義雄七段（左）と花田長太郎八段。



「JOAK、JOAKこちらは東京放送局」
1日5時間、英語講座からドラマまで

# 〝娯楽の王様〟ラジオ放送、始まる!

夜明けは、「仮放送」ならぬ「借放送」で幕を開けたのである。

## 熱演でマイクを壊す芸人 〝出演拒否〟の学者も登場

こうして始まったラジオの放送時間は、大正一四年当時で平均一日約五時間。番組内容は、講座やラジオ劇、音楽、演芸、ニュース、経済市況、天気予報と比較的充実していたが、とまどったのは初めて出演した芸人や学者たちだった。

「講談の大島伯鶴は声を張りあげなければ聴取者に聞こえないと思い込み、熱演の果てにマイクを故障。中には、スタジオの窓を開け放って放送しようとした演芸家まで登場した」（『放送五十年史』）。「寝そべって私の話を聞く輩がいるのは許せん。だからラジオには一生出ない」と出演を断り続ける偏屈学者もいた。

ユニークなエピソードが次々と生まれた一方で、人気番組も登場する。本放送が始まる七月には、巌谷小波らの童話が人気を呼んだ「子供の時間」、語学テキスト刊行の先駆け「英語講座」、初のラジオドラマ「大尉の娘」がスタート。特に、陸軍大尉と娘の悲話を描いた「大尉の娘」は、半鐘音や火炎などの効果音、井上正夫（四四）と水谷八重子（一九）の熱演が人気を呼んだ。地底の炭坑で追いつめられる心理を描くため、水入りの大樽をスタジオに持ちこんで効果音を作った「炭坑の中」も、初期のラジオドラマを語るのに不可欠だろう。

評論家の加藤秀俊氏は、「珍奇譚に共通しているのは、驚くべきリアリズムだ。花街の気分を出そうと思うと格子戸を作って畳を敷き、三味線をはべらせ杯のやりとりまで実演する。鳥の鳴き声なら、鳥を木に止まらせてその前にマイクをおき、鳴くまで待つ。初期のラジオ放送には〝超素朴自然主義〟があった」と語る。

こうして新境地を開くラジオを、庶民は新しい娯楽として受け入れた。理髪店や食堂はスピーカーを一日鳴らし続け、「耳隠し」に似た髪形「ラジオ巻き」が流行。子どもが「えー、生糸六分の一高。支那は荷不足、各限いっせいに反発してえー」と商品市況をまねる「ラジオごっこ」も登場した。東京、大阪、名古屋の三局がひとつになって日本放送協会が設立された大正一五年八月には、聴取契約数が三三万件を突破。ラジオは、またたく間に庶民に浸透していったのである。

ところが、昭和初期になると、庶民のラジオに対する需要を支えるのが、「娯楽」から「戦争」へ変わることになる。夫や息子を戦場に送った人々が、臨時ニュースを聞くために受信機（約五〇円）を購入していったからだ。「満州事変」後の昭和八年、受信契約数は全国で約一七〇万件に達し、番組も戦況速報や政府当局者の演説が中心を占め始めた。〝リアリズム〟にあふれていたはずの初期のラジオ放送は、皮肉にも、この頃から嘘で固められた大本営発表のニュースを垂れ流す放送機関と化していくのである。

## ラジオ放送〝初めて〟史

**●大正14年3月5日　臨時ニュース第1号**
洲崎の遊廓で起きた大火事を、午後7時半に速報。新聞の夕刊は間に合わなかった。

**●大正14年3月11日　映画のラジオ化**
熊岡天童が「噫無情」を放送。活動弁士による映画のラジオ化は、好評を博した。

**●大正14年3月22日　時報が始まる**
午前11時30分頃と午後9時40分頃の1日2回。当時は、1秒から5秒の狂いはざらだった。

**●大正14年3月23日　初の講演放送**
高田早苗・早稲田大学総長が「新旧の弁」を講演。翌日は下村宏の「新聞の功罪」。「家庭にいながら名士の声が聞ける」と好評だった。

**●大正14年7月20日「英語講座」始まる**
岡倉由三郎のユニークな小話が人気。6週間連続放送。テキスト刊行の先駆けだった。

**●昭和2年8月13日　初の野球中継**
全国中等学校野球大会（現在の高校野球）を、甲子園球場から中継。アナウンサーは魚谷忠。職員がミットを持ってマイクを守っていた。

**●昭和3年1月12日　相撲中継が始まる**
両国国技館の春場所を、松内則三アナが中継。6代目出羽海親方の「相撲に関心のない人も見に来るようになる」のひとことで実現。

**●昭和3年11月1日「ラジオ体操」開始**
日曜日と祝祭日の朝に放送。江木理一は昭和14年5月までの約10年間、無遅刻、無欠勤で号令をかけ続けた。

◀東京・芝の愛宕山に開設された日本初の放送局、東京放送局の全景。現在は、NHK放送博物館となっている。 NHK提供

▲ラジオ初の野外中継。大正14年10月31日、名古屋第三師団練兵場の天長節祝賀式の放送風景。 NHK提供

# 「国体」の名のもとに、量刑も対象もエスカレート
# 「京都学連事件」から正式発動!
# 「治安維持法」制定と〝弾圧の構図〟

▶大正14年3月、治安維持法反対集会で検束される参加者。普選法と抱き合わせで上程された法案に、強い反対論が巻き起こった。
朝日新聞社

大正一四年四月、悪名高い治安維持法が制定された。「国体の変革と私有財産制度の否認を目的とする結社」の運動を犯罪行為として取り締まるもので、昭和二〇年一〇月、占領軍覚書で廃止されるまで、思想・言論の自由を弾圧、統制するために用いられた。治安維持法による検挙者数は、この間、二〇年間で、約八万人にのぼるとも言われる。

## 「主義者」を「国賊」視!治安当局が描いた〝構図〟

大正一四年四月二二日、治安維持法が公布された。翌日の新聞は公布、および施行の期日を伝えたのみだったが、その第一条は、取り締まる対象を次のように規定していた。

「『国体』を変革し又は私有財産制度を否認することを目的として結社を組織し又は情を知りて之に加入したる者」

治安維持法は、都市型プロレタリアートの形成を背景に台頭し始めた新しい形態の大衆運動、とりわけ共産主義運動に対処するための新治安立法であった。

実際、治安当局は大正一二年六月の「第一次共産党事件」で、共産「主義者」を弾圧し、「国賊」視する世論作りに成功した。そして同年九月、その延長上で憲兵隊による「無政府『主義者』大杉栄虐殺事件」が引き起こされる。「主義者」に対する偏見と憎悪をあおり、「国体」の変革をめざすものを「国賊」に仕立てること――これが、治安当局の思い描いた〝弾圧の構図〟だったのである。

「『国体』という言葉の持つ魔力は非常に大きかったですね。おそれおおくも↖

……というイメージ、天皇制国家=『国体』という感じで、絶対的なものだった」(国際基督教大学・奥平康弘教授)

治安維持法は、後年日本の歴史の変化に応じて改悪されていく。まず昭和三年には、「国体」変革を目的とする行為の最高刑が、「一〇年以下の懲役または禁錮」から「死刑と無期自由刑」へとエスカレートする。さらに、この「『国体』変革」というあいまいな規定が拡大解釈されて、大本教弾圧(昭和一〇年)など信仰の自由の領域にまで立ち入ることとなり、昭和一六年三月、条文の数も内容も根本的に改められて、法解釈の拡大・拡張に明確な根拠が与えられた。日本が太平洋戦争に突入したこの年、治安維持法は、文化人や民族主義者、自由主義者にまで適用されることになったのである。

## 「京都学連事件」から「三・一五」の大弾圧へ

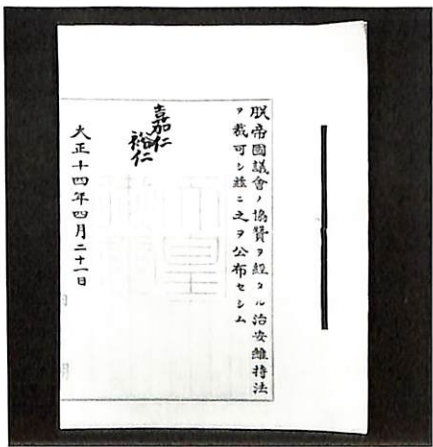
治安維持法が当初の標的とした日本共産党は、大正一三年に解党していた。アナーキストの勢力も、大杉栄の死で急速に衰退し、制定時の治安維持法は、適用対象を失っていた。結社の取締りを目的としたこの法律は、伝家の宝刀として温存されるかに見えた。しかし、実際には濫用に近い形で使われるようになる。

「治安維持法による摘発と言われた事件は、『ブラック社事件』をはじめとしていろいろありましたが、官憲側の資料から判断して、国家権力による正式な発動は『京都学連事件』が第一号です」(小樽商科大学・荻野富士夫教授)

大正一四年一二月一日、京都府の特高警察は、正式の令状を持たず、京大社研(社会科学研究会)の学生一八人、同志社大生一五人を検束し、荷車三台分もの書物・文書などを押収した。これは、特高課の警官が、一一月中旬、同志社大学構内で、軍事教練反対のビラ一葉を発見したのがきっかけで、ビラの経路、左傾学生の組織をたどれば、上部組織に行きあたるはずという見こみ捜査であった。

しかし、一二月七日、府警は検束した学生をすべて釈放する。特高警察の行動は適法性を疑われ、学生・大学・新聞などの非難のまととなった。終息したかに見えた事件だったが、政府当局の間で秘密裡に仕立て直され、翌大正一五年一月一五日に、京都、東京そのほかの学連(学

▶治安維持法原本に見える条文。第一条の条文中、棒線で消された「若ハ政体」の部分は、衆議院で修正されたもの。

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
嘉仁
裕仁
大正十四年四月二十一日

▶治安維持法の原本。公布前日の、天皇と摂政宮(後の昭和天皇)の署名。

国立公文書館蔵(左1点とも)

◀大正14年1月、軍事教練に反対して、警視庁前で演説中の学生たち。学連を中心に、運動は盛り上がりを見せていた。
日本共産党提供

生社会科学連合会）関係者三八人が初めて治安維持法を適用され、逮捕された。

大正一五年九月一八日、三八人は全員が治安維持法で起訴された。肝心の第一条ではなく、第二条、三条の協議罪・扇動罪を問われたのである。昭和二年五月三〇日、京都地裁は全員に有罪判決。禁錮八月から一年という内容だったが、被告人も検察側も不服で、両方が控訴した。

控訴審の公判は、昭和三年三月五日から始まった。ところが、直後の三月一五日、全国で総数一六〇〇人という大検挙が開始される。いわゆる「三・一五事件」である。この検挙は、大正一五年一二月に再建された非合法結社の日本共産党弾圧をねらったものだった。「京都学連事件」の被告人の相当数は、日本共産党への加入罪を問われ、翌四年一二月一二日下された控訴審判決では、「三・一五」に連座したものには最高が懲役七年、軽いものでも懲役三年という厳しい刑が科された。

「『京都学連事件』は、特高が勇み足をして事態収拾をしかねていたところに、司法省が治安維持法という新しいアイディアで助け船を出した。司法省としては中心人物をたたきつぶして、左傾学生運動全般に冷や水をあびせようというもくろみだったと思います。治安維持法の小手調べのような『京都学連事件』とは違って、『三・一五』は本格的な適用事件と言ってよいでしょう。『三・一五』で当局は、共産主義者らの国体変革要素を喧伝し、国民の間に反共思想をまき散らしたのです」（前出・奥平教授）

新聞各紙はこぞって、警察発表を鵜呑みにし、「共産党の大陰謀事件が暴露された」といった仰々しい解説をして〝アカ狩り〟をあおった。

リベラリストの木佐木勝（当時・「中央公論」編集委員）は、その頃の風潮を以下のように日記にしたためている。

「近ごろ安政時代の復活を思わせる暗い、重苦しい事件の連続である。弾圧につぐ弾圧、石も叫ばんという現状だ。せめて新聞報道だけでも、事件と弾圧の裏にある真相を伝えてもらえないだろうか」（『木佐木日記』現代史出版会）

治安維持法が適用された事件は、おもなものだけでも「四・一六事件」（昭和四年）、「小林多喜二虐殺事件」（八年）、「共産党スパイ査問事件」（八年）、「大本教事件」（一〇年）、「天理ほんみち教団事件」（一三年）、「ゾルゲ事件」（一六年）と数多いが、この「三・一五事件」をきっかけとして特高警察が強化され、ファシズム体制が確立していくのである。

◀「京都学連事件」を報じる「京都日日新聞」号外（大正一五年九月一五日付）。

◀〝治安維持法適用第一号〟と報じた「東京朝日新聞」（大正一四年六月一八日）の記事。



女たちの肖像

# ラジオの花形は三児の母！女性アナ第一号・翠川秋子が在職七ヵ月に終わった理由

稲葉真弓

東京放送局（現・NHK）ができたのが、この年の三月。まだ仮放送とあって「アー、本日は晴天なり」と繰り返す程度だったが、六月二五日、そこに日本初の女性アナウンサーが誕生、たちまち話題になった。翠川秋子（三五＝本名・萩野千代）である。

ラジオも女性アナも珍しいため、各新聞社が殺到、マイクロホンの前に彼女を座らせ、写真を撮影、容姿や声について一斉に書き立てた。このため彼女は、どこに行っても視線をあび、身のおきどころがなかったという。花形キャスターの走り、キャリア・ウーマンの先駆けと言ったところだが、実は彼女は三人の子持ち、生活に必死の未亡人だった。

アナウンサーに抜擢されたのは、その美貌と才気にあった。当時は珍しかった洋装、断髪姿、目をくまどった化粧に、明快な語り口。たまたま、番組の中で一五分間の空白が生じた時、アドリブで七味唐がらしの作り方を紹介するなど「切れる美人」として局内の評判を呼んだ。が、美貌と才気が逆に男性の反発を呼び、セクハラめいた事件で、泣く泣く局を退職。在職期間は、翌大正一五年一月までのわずか七ヵ月だった。

▲番組では「家庭講座」「子供の時間」などを担当した。

翠川秋子の背後には、いつも生活苦がついてまわった。

明治二二年、東京・日本橋の砲術師範の一人娘として生まれた彼女は、幼少時は裕福だったが、人にだまされて何千坪という土地を失った後、父が病死、母一人、子一人となった。明治三九年、女子美術学校に入学、高等科まで進んだが絵には挫折。四四年銀行員と結婚し、五年後には三児の母になっていた。大正一一年、夫が病死してから家計は秋子一人の腕にかかってきた。女学校の教師、便箋などの図案書き、鉄道従業員向けの雑誌の編集者と孤軍奮闘してきた彼女にとって、花形アナウンサーの職を失うことは、さぞ無念だったに違いない。

この後の彼女は、子と老いた母を抱え、再び雑誌編集者、食堂やおでん屋の経営など職を転々として働き続けるが、その名が再び世間をにぎわすのは退職後一〇年余を経た昭和一〇年八月、千葉県の海で二九歳の独身男性と衝撃的な情死をとげた時である。

知人宛の遺書には、子どもの未来のために死を選ぶといったようなことが書かれていたが、本当の動機はわからずじまい。むしろ、添えてあった句「四十年有耶無耶にして今朝の露」に、生活に振りまわされた女の無念が表れているように思える。

勝者・敗者

# ライバルなき土俵に見切り 三場所連続優勝の直後に〝大横綱〟栃木山、引退！

阿部珠樹

大正中期の大相撲は、出羽海部屋の天下だった。明治の大横綱、常陸山は、引退して出羽海部屋を継ぐと、大錦、栃木山、常ノ花と三人の横綱を育て、今の二子山部屋をしのぐような一大王国を築き上げたのだ。

春と夏の年二場所制のもとで、大正六年から一〇年夏までの一〇場所、大錦、栃木山、常ノ花の三人が入れ替わり立ち替わり優勝し、ほかの部屋を寄せつけなかった。

大正一二年、大錦が力士の待遇改善ストライキ「三河島事件」の責任を取って引退した後も、出羽海部屋の牙城は揺るがなかった。何と言っても、大黒柱の栃木山が健在だったからだ。

栃木山は、身長一七二センチ、体重一〇五キロ。当時としても小柄だったが、ハズ押しの威力は抜群で、部屋の先輩、大錦を追いかけるように、猛烈なスピードで番付を駆け上がってきた男である。五六連勝中の横綱太刀山を破って大関昇進、そこも連続優勝して通過、大正七年には横綱に昇進した。

横綱に昇進してからも、強さはいっこうに衰えず、大関時代から通算して五場所連続優勝をはたしている。

大正一三年春、この大横綱の「黄金の時代」が始まる。この場所、九勝一分けでなんなく優勝、夏場所も一〇勝一敗で優勝。大錦はすでに引退し、常ノ花もまだ発展途上、ライバルはなく、栃木山の前には無人の野が広がっているだけだった。

そしてこの年、大正一四年春、栃木山は一〇勝一分けで当然のように優勝する。その直後だった。栃木山は、突如、引退を表明する。年齢は三三歳になっていたが、どこにも力の衰えは見られないし、大錦のような騒動があったわけでもない。栃木山の引退が衰えによるものでなかったことは、引退から六年後、第一回の選士権大会に出場して現役力士を総なめにして優勝したことでもわかる。おそらく、競争相手のいない地位に安住することを、いさぎよしとしなかったのだろう。

大横綱は、何よりも強い相手が好きだったのだ。

▲横綱在位14場所で、115勝8敗の驚異的な成績を残した。

「イリュストラシオン」

◀**日ソ基本条約調印（1月20日）**北京の日本公使官邸で、両国全権大使が握手、革命後とだえていた日ソ国交回復を達成した。写真右は、ソ連のカラハン。日本側の芳沢謙吉は、病気のためベッドに腰かけて署名した。

▼**東京・築地の聖路加病院燃える（1月13日）**本館、病室3棟などを全焼。幸い昼間だったため入院患者140人余、委託乳児7人全員が無事だった。原因は、炊事場の煙突の過熱。

「写真通信」

「国際写真タイムス」

「国際写真情報」／国際フォト

▲**高松宮宣仁親王、成年式奉告（1月29日）**宮中で13日、20歳の式典が行われた。この日、先帝に奉告するため、海軍少尉候補生の制服姿で京都・伏見の桃山御陵に参拝した。

▶**アルバニア、共和国宣言（1月21日）**初代大統領に、地主出身のアフメッド・ゾーグ（写真）が就任。3月に憲法を公布し、独裁的大統領制のもとでの議院内閣制をうたった。

「イリュストラシオン」

▲**トロツキー失脚（1月28日）**ロシア革命の大立者が、スターリンらに党反対派として批判され、革命軍事会議議長解任。写真は、クリミヤへ都落ちするトロツキーと夫人。

▶**世良田村事件起こる（1月18日）**群馬県の未解放部落を村民多数が襲撃、暴行の限りを尽くした。差別発言を受けた未解放部落住民が村民を非難したことへの、復讐だった。加害者23人は、懲役6月以下の判決。

「国際写真情報」／国際フォト

## 大正14年 1月

**1**（木）●「キング」（講談社）創刊、七四万部売れる。
**2**（金）●仏、対米戦債一〇年間支払猶予、支払期間九〇年間を要求。
**3**（土）●ポルトガル、ソ連承認を決定。
**4**（日）●朝鮮総督府、今年度予算一億七三四〇万円と。
**5**（月）●ムッソリーニ、内閣改造をしてファシスタ党の独裁体制を確立（20日、独裁宣言）。
**6**（火）●大正一〇年焼失の歌舞伎座が落成。
**7**（水）●パリの連合国財政会議、開催（16日、独賠償支払金の分配についての協定成立）。
**8**（木）●東邦電力の外貨債、ニューヨークで一五〇〇万ドル、ロンドンで三〇万ポンド成立。
**9**（金）●大阪の道修女子薬学専門学校、設置認可。
**10**（土）●文政審議会、軍事教育実施案を可決。
**11**（日）●世界一周観光団四七一人の米船が横浜に来港。
**12**（月）●南京の排日運動激化。海軍陸戦隊が上陸。
**13**（火）●高松宮、海軍少尉候補生の制服で成年式。●東京・築地の聖路加病院、白昼に全焼。
**14**（水）●在外正貨六〇〇〇万円の横浜正金銀行への払い下げと国内正貨の現送を決定。
**15**（木）●独にハンス・ルター内閣成立。ナチス党員が初めて閣僚に加えられる。
**16**（金）●東京市の地下鉄計画発表（六線、延長総計約七九キロ、均一運賃一〇銭など）。
**17**（土）●米の富豪、ロックフェラーが東京帝大図書館に四〇〇万円寄付。
**18**（日）●群馬県世良田村で村民二〇〇〇人が未解放部落二三戸を襲撃（世良田村事件）。
**19**（月）●前年来廃止騒ぎの東京市営バス、存続に決定。
**20**（火）●日ソ基本条約、北京で調印し、国交回復。
**21**（水）●アルバニア国民議会、共和国を宣言。
**22**（木）●加藤高明首相、普選断行・行財政の根本整理・綱紀粛正・貴族院改革と施政方針演説。
**23**（金）●房総線の列車に連結した郵便車両が襲われ、現金二九三〇円の入った行嚢強奪される。
**24**（土）●警視庁、軍事教育反対の学生デモを禁止。
**25**（日）●東京・千住で大火。青物市場の問屋など焼く。
**26**（月）●米穀輸入税免除令、公布（8月31日までの免除を決定、その後10月末まで免除延長）。
**27**（火）●東京市、本年度中に「新浅草」建設と新聞に。
**28**（水）●ソ連でトロツキーの革命軍事会議議長を解任。
**29**（木）●武田製薬が合併し、武田長兵衛商店設立。
**30**（金）●東京、大雪で市営バス（愛称、円太郎）立ち往生。
**31**（土）●旅順防備隊令廃止を公布（4月1日施行）。



# ニュース・ファイル 1925

## フォト＋日録で再現する365日

納税額の資格条件はなくなったものの、二五歳以上の男だけによる普通選挙法が成立し、引き換えに、思想・結社の自由を縛る治安維持法が機先を制するように施行された。雑誌「キング」、ラジオ放送、東京六大学野球――大衆社会は新たな娯楽に興奮した。

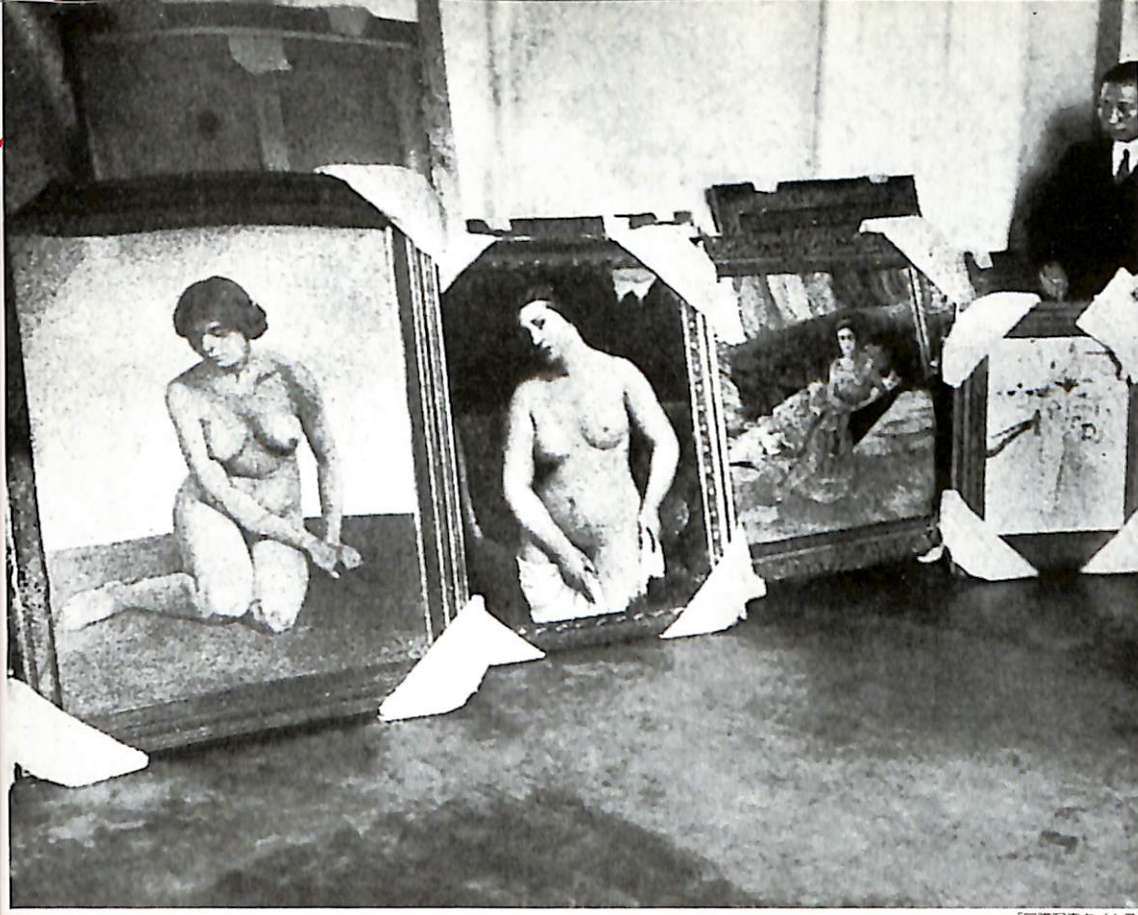
◀**ヒトラー親衛隊SS誕生（11月9日）**SA（突撃隊）司令官・レームがSAのナチス機関化を拒否したため、それに対抗。全国党員の中から、総統を崇拝する23～35歳の屈強の男たちを隊員に選んだ。写真は閲兵式。

CORBIS-BETTMANN／PPS

「国際写真タイムス」

▲**聖徳記念絵画館が完成(2月1日)**大正15年の開苑をめざして造成中の、明治神宮外苑内に登場。外壁は薄桃色の花崗岩、内壁・柱は大理石造り。明治天皇と昭憲皇太后の事績を描いた絵画が陳列された。

「国際写真タイムス」

◀**にらまれた裸体画(2月15日)**日仏芸術社が、フランス美術展覧会を東京・上野で開催。写真は2日、荷ほどきされた「名作」。警視庁は、ヴァン・ドンゲンの裸体画など5点の一般公開見合わせを通告。

▶**気象無線通報、開始(2月10日)**中央気象台が1日3回、航海中の船に気象の予報・概況などを放送。神戸海洋気象台が大正11年に始めた世界最初の無線電信送信に次ぐ、快挙。左が開発者・曽我義徳。

「国際画報」

◀**週刊誌「ニューヨーカー」誕生(2月21日)**元新聞記者のハロルド・ロスが都会派に向け、明るさと粋と風刺を主調とする雑誌を発刊。写真は創刊号表紙。リー・アービン画。

「国際画報」

◀**エーベルト大統領葬儀(3月4日)**ドイツ革命後のワイマール共和国代表として、戦後処理にあたってきたが、2月28日腹膜炎で死亡。54歳。告別式には50万人が参列。

朝日新聞社

▶**加賀百万石「高砂や」(2月7日)**侯爵・前田利為と酒井伯爵家令嬢・菊子が結婚、100畳の東京・本郷の前田家大広間で古式ゆかしい式典を挙行。写真は、邸内の祖先霊社参拝後。

## 大正14年2月

1(日)●海軍労働組合連盟会議、国際労働会議代表選挙に鈴木文治を満場一致で推薦決定。
2(月)●栃木県下の六銀行が合同し下野中央銀行開業。
3(火)●衆議院、義務教育費国庫負担増額案否決。議場は混乱し、暴行事件起こる。
4(水)●日ソ間の郵便再開。
5(木)●米で史上初の女性州知事が誕生、就任宣誓式。
6(金)●実業同志会・中正倶楽部および政友本党連合、金輸出解禁決議案を衆議院に提出。
7(土)●島根県隠岐の西郷町で大火。一四〇戸焼失。
8(日)●グアムの海底線故障で日米間の電報が混乱。
9(月)●上海の日本内外綿紡績工場労働者が賃上げ・組合承認を求めスト(~3月1日)。
●独、英仏にロカルノ条約の原案となるラインラント安全保障条約を提案。
10(火)●中央気象台、気象無線通報を開始。
11(水)●東京など各地で治安維持法、労働争議調停法、労働組合法の三法反対大会。デモ行進。
12(木)●海軍軍備予算、約四五〇〇万円の追加成立。
13(金)●枢密院、普選法案に関し政府との妥協成立。
14(土)●仏・シャム、仏の治外法権廃止の条約調印。
●築地・聖路加病院復興基金募集の大仮装舞踊大会、帝国ホテルで開催。
15(日)●全日本スキー連盟創立。
16(月)●東京放送局、受信加入申し込み受付開始。
17(火)●衆議院、小学校に武道教育の導入を決める。
18(水)●東京市、大久保・広尾など五ヵ所に伝染病院と一般病院を兼ねた市立総合病院建設を決定。
19(木)●政府、治安維持法案を衆議院に緊急上程。
●ジュネーブで国際阿片会議終わる(米では年に一〇〇万人の阿片中毒者が出ると報告)。
20(金)●電気機械などの輸入商・高田商会、内閣に救済融資を拒否されて破綻。
21(土)●全日本陸上競技連盟の創立規約、決定。
●米で週刊誌「ニューヨーカー」創刊。
22(日)●普選および貴族院改革断行国民大会、開催。
23(月)●京都の大堰川改修工事の請負割当をめぐり、土木業者が乱闘。死傷者数十人。
24(火)●東京区裁判所検事局、復興局技師ら八人を賭博罪で起訴。
25(水)●蔵原惟人、「都新聞」特派員の名目でソ連に。
26(木)●土浦高女で校長の休職に抗議して同盟休校。
27(金)●ヒトラーが釈放後初めてナチス大会に登場。
28(土)●大阪放送局(JOBK)、設立。



## 証言・あの日この日
# 吉野圭三(35)

吉野俊彦提供

**3月19日(木)** 〈出勤　午後貴族院本会議にて日本無線電信株式会社法案可決確定す　之れにて多年の懸案問題解決し　重荷を下ろした感じがした〉(吉野俊彦『わが家のルーツ探し』)

日銀理事をつとめながら、鷗外研究家としても知られる吉野俊彦の父・吉野圭三は逓信省勤務の役人だった。この年、ラジオ放送が始まるなど、通信・放送事業は、新しい段階を迎えつつあったが、圭三は、通信局外信課長として日本国際無線電信株式会社設立準備に活躍。国際電気通信事業は、もともとは逓信省の直営だったが、これ以上の設備拡充は、当時の日本の財政事情から見て無理だった。そこで民間資金を導入して、国策会社として発足させる計画を立てる。圭三は、一貫してこの計画の責任者として奔走。この日、ようやく法案可決までこぎつけたのであった。　(山崎行太郎)

▼**東京市電で女性の車掌68人誕生(3月20日)**東京・青山教習所を巣立ち、各出張所に配属。毎日、午前7時から午後9時まで乗務した。制服は東京市バス車掌の白襟に対抗し、赤襟を特徴とした。

「国際画報」

▲**孫文、死去(3月12日)**1912年の中華民国発足で臨時大総統になって以来、七転八起の不屈の精神も肝臓癌には勝てなかった。58歳。写真は19日、北京・中央公園で行われ会葬者が5万人を超えた国葬。

「イリュストラシオン」

▲**マダム・タッソーろう人形館焼ける(3月18日)**1835年に創設、ロンドン名物となっていたヘンリー8世と6人の妻たちなど、ろう細工の世界の有名人が被害にあった。写真は、運び出される〝生存者〟たち。

「国際画報」

▶**クーリッジ米大統領就任(3月4日)**1923年、ハーディングの突然の死により昇格、前年の選挙で再選された。52歳。保守派の共和党員で、排日派と言われた。写真は、国会議事堂で行われた就任演説。

「写真通信」

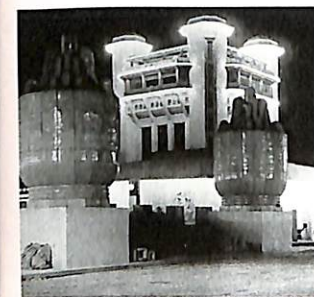
▶**普通選挙法、成立(3月29日)**明治以来の運動が、やっと実を結んだ。写真は妥協の結果の成立にほっとする、前列左から加藤首相、高橋農相、犬養逓相、幣原外相ら。女性を含む「完全普選」の実現は、第2次大戦後。

## 大正14年3月

1(日)●東京放送局(芝浦)、ラジオ試験放送開始。
2(月)●衆議院、普通選挙法案を修正可決(26日、貴族院で修正可決、29日、両院協議会案成立)。
3(火)●二月一五日に起こった一木喜徳郎枢密院副議長邸襲撃事件、暴漢四人収監で記事解禁に。
4(水)●閣議、日本無線電信株式会社法案を決定。
5(木)●東京・洲崎遊廓の火事で約二七〇戸焼失。
6(金)●総同盟と三十余組合が関東労働組合会議結成。
7(土)●衆議院、治安維持法案を可決(19日貴族院も)。
8(日)●大雪の猪苗代駅で列車一五時間立ち往生。
9(月)●政府、貴族院に貴族院改革案を提出(25日、修正可決、5月5日公布)。
10(火)●政府、日英協定税率を廃棄。
11(水)●東京地検、予言者・飯野吉三郎を起訴。
12(木)●英、国際連盟ですでに三二ヵ国が調印したジュネーブ議定書を拒否し、無効とする。
13(金)●京阪電気鉄道に受電増加の設計変更許可。
14(土)●衆議院、正副議長の党籍離脱を決定。
15(日)●英系トルコ石油会社がイラク政府と期間七五年の石油採掘協定を締結。
16(月)●日本労働総同盟、地方無産政党結成方針決議。
●ベルリンで「美と力への道」封切。
17(火)●満鉄、二〇九〇人の人員整理を発表。
18(水)●ロンドンの「ろう人形館」が焼ける。
19(木)●衆議院、金解禁決議案を否決。
20(金)●東京市電、初の女性車掌六八人を採用。
21(土)●群馬県佐野村の馬場源八郎が初めて複葉グライダーを製作、飛行に成功。
22(日)●労使に学者を加えた国際労働協会、創立。
23(月)●ソ連駐在日本大使館、開設。
24(火)●東京帝大医科への合格率、一位は三高と大阪高校、と新聞に。
25(水)●米テネシー州知事、州内の教育機関で進化論を教材に使うことを禁止する法律に署名。
●今年度予算一五億二三四二万余円が成立。軍事費は歳出の二一・二%。
26(木)●国際労働会議の労働者代表・鈴木文治出発。
27(金)●陸軍、軍縮にともない四個師団廃止を発表。
28(土)●品川―田端間、複々線開通。
29(日)●近衛文麿、田沢義鋪ら、新日本同盟を結成。
30(月)●東京―横浜間、鉄道の電化工事完成。
31(火)●農商務省を廃し、農林省・商工省設置を公布(4月1日、商相兼農相に高橋是清)。
●震災手形割引の一ヵ年の期間延長を公布。

▲**田中義一、政友会総裁に(4月13日)** 高橋是清の後を継ぎ、陸軍大臣を辞めて就任。昭和2年には立憲政友会内閣の首相兼外相となり、大陸進出を積極的に推進。写真は7日、入京した田中。
「国際画報」

▲**ドイツ大統領に、ヒンデンブルク元帥当選(4月26日)** エーベルトを失ったワイマール派に勝利、帝政時代の「国民的英雄」が蘇った。写真は選挙運動中の宣伝パレード。後、超議会政府を組織、1933年にはヒトラーに組閣を命じナチス独裁への道を開いた。
「イリュストラシオン」

▼**パリでアール・デコ展開催(4月29日)** この頃のインテリアと工業美術の理想を追求。仏建築家ル・コルビュジエが提唱してきた「理想都市」計画を展示。写真はそのうちのひとつ、「聖なる回転レストラン」。

「イリュストラシオン」

▲**米国移住50年(5月3日)** 露骨な差別待遇に耐えて、半世紀を迎えたカリフォルニア州の日本人移民たち。前年成立の新移民法により、新しい移民が全面禁止となっただけに、祝賀の感慨もひとしおだった。
「太陽」

「国際画報」

▲▶**商工省・農林省、新設(4月1日)** 商工省は商・工・鉱業、地質、軍需調査などを管理、農林省は農林・水産・畜産、米穀法施行に関する事務などを管理する。農商務省大臣だった高橋是清が、両大臣を兼務。写真は看板を掛け替えた農林省と、道ひとつへだてて分離した商工省。
「国際画報」

## 大正14年 4月

1(水) ●新橋演舞場、開場(3日、新橋芸妓による第一回「東おどり」公演)。
●大阪市、東成・西成郡の四四町村を合併し、四区から一三区のほぼ現在の規模に。
2(木) ●銀貨偽造犯、浦和刑務所の独房から脱獄。
3(金) ●八王子で開通まもない玉南電車、賃金不払いから工事をした朝鮮人数百人に包囲される。
4(土) ●立憲政友会総裁・高橋是清、引退を表明(13日、大会で田中義一が総裁に就任)。
5(日) ●一ツ橋商大での薬剤師と歯科医師の試験に試験委員長らが出席せず、開始時刻を延期。
6(月) ●浅原健三・安部磯雄ら九州民権党、結党。
7(火) ●世界最大の米航空母艦「サラトガ」進水式。
8(水) ●福建軍閥政府、米の対華教育政策に反対する学生の請願運動を弾圧(福州虐殺事件)。
9(木) ●東京米穀先物相場、一石四二円に高騰。
10(金) ●英労働組合会議と全露労働組合中央評議会が労組の国際的統一のため英露委員会を設置。
11(土) ●メートル法宣伝デーでビラ五万枚配布。
12(日) ●ウエートレス共励会(女給組合)が発会式。
13(月) ●陸軍現役将校学校配属令を公布。中等学校以上の学校で軍事教練が義務づけられる。
14(火) ●薬剤師法公布。
15(水) ●海軍水路部測量艦「満州」が日本南海観測、黒潮・赤道流調査などのため横須賀港出港。
16(木) ●総同盟、関東地方評議会加盟全組合を除名。
●ブルガリアのソフィアの教会で爆殺事件。
17(金) ●京城(現・ソウル)で朝鮮共産党結成。
18(土) ●大蔵省、地方銀行の合同・預金協定の励行・整理減配の奨励を地方長官宛に通達。
19(日) ●青島の日本紡績労働者がスト(~5月10日)。
20(月) ●東京―大阪―福岡間に初の定期航空郵便。
●ピアニストの久野久子、ウィーンで自殺。
21(火) ●「来福丸」がカナダ沖で沈没、三八人溺死。
22(水) ●治安維持法、公布(5月12日、朝鮮、台湾、樺太でも施行)。
23(木) ●文部省、壮丁教育成績調査要領を地方に通牒。
24(金) ●初代駐日ソ連大使、コップが来日。
25(土) ●大阪税務局係長のモスリン商からの収賄発覚。
26(日) ●日露交驩交響管弦楽演奏会、歌舞伎座で開催。
27(月) ●加藤首相暗殺未遂事件で、内田良平を収監。
28(火) ●英国のチャーチル蔵相、金本位制復帰声明。
29(水) ●パリのアール・デコ展、開催。
30(木) ●前年米ゴルフ大会優勝の赤星六郎が凱旋帰国。



「写真通信」

▼**ソフィアの爆弾犯、処刑(5月27日)** 前月16日、大聖堂で行われた葬儀に時限爆弾を仕掛け、閣僚・議員・将校ら123人を殺害。犯人はロシアと通じたテロリスト。ブルガリア共産党は、これを機に非合法化された。

▲**レーシングカー転覆(5月3日)** 東京・代々木練兵場で行われた全国自動車競技大会で、吾妻自動車商会の競走用第7号車が疾走中、突然2、3度宙返り。投げ出された運転手と助手は、それぞれ1週間の傷を負った。

「イリュストラシオン」

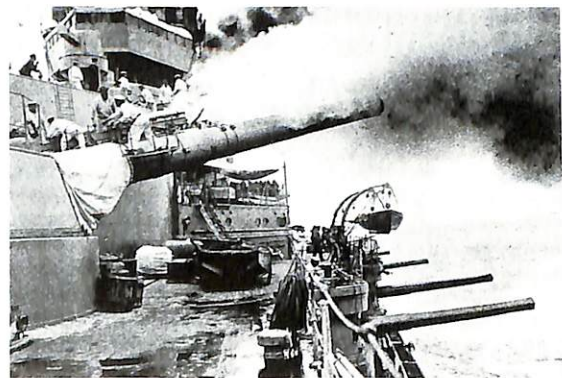
「写真通信」

▼**日本海海戦20周年記念海軍大演習(5月28日)** 東京湾の羽田沖で魚雷発射、空爆など壮烈な模擬戦が行われた。写真は、仮装敵軍に16インチ砲を撃つ戦艦「長門」。

▲**但馬地方に大地震(5月23日)** 午前11時頃、M6.8の地震が発生、全壊・焼失3516戸、死者・行方不明428人。特に豊岡・城崎は壊滅状態で、写真は城崎町の余震におびえる避難民。

▼**上海で「五・三〇事件」起こる(5月30日)** 紡績工場ストへの虐殺事件に抗議する中国人デモ隊に、英人警官隊が発砲、死者・負傷者数十人。これを契機に上海市がゼネストに。写真は抗議の貼り紙。

「国際画報」

▲**天皇ご成婚25年式典(5月10日)** 陸軍中佐の礼服姿の摂政宮をはじめ、皇族、政府閣僚らが豊明殿に参列。宮内官が、療養中の天皇の代拝を行った。写真は女学生ら、宮城前で銀婚を祝う人々。
「国際画報」

「国際画報」

## 大正14年 5月

1(金) ●「家の光」(産業組合中央会)創刊。
●上海で劉少奇がプロフィンテルン系の中華全国総工会(初の全国労働組合組織)を結成。
2(土) ●有馬伯爵家、東京美術クラブで書画売り立て。
3(日) ●函館水電の電車従業員がストライキ。
4(月) ●ブルガリア、共産党を非合法化する。
5(火) ●衆議院議員選挙法改正、公布(二五歳以上の男子に普通選挙権。被選挙権は三〇歳以上)。
6(水) ●皇太子妃懐妊を公表。
7(木) ●臨時法制審議会総会、自由結婚年齢を二〇歳に下げることを可決。
8(金) ●日本無線電信株式会社法施行令を公布。
9(土) ●共済信託設立(15年2月、安田信託に改称)。
10(日) ●天皇・皇后ご成婚二五年祝典が行われる。
●大阪放送局、試験放送(6月1日、仮放送)。
11(月) ●京都・綾部町会議員選挙に出口王仁三郎当選。
12(火) ●ソ連にウズベク、トルクメン、カザフ加わる。
13(水) ●埼玉県熊谷で大火、八〇〇戸焼失する。
14(木) ●上海の日本内外綿紡績工場でスト再開(15日、労働者一〇人余殺傷、二万人余が抗議スト)。
15(金) ●シベリア出兵で最後まで残った北樺太派遣軍の撤退完了。
16(土) ●鉄道省、東京市の高速地下鉄道敷設を認可。
17(日) ●大阪府立産業能率研究所開設。
18(月) ●東京農業大学の設立認可。
19(火) ●ジュネーブで第七回国際労働会議を開催。
20(水) ●英下院、未亡人孤児年金・老齢年金法を可決。
21(木) ●警視庁保安課が活動弁士の試験を実施。
22(金) ●日活直営映画館が不景気で入場料値下げ。特等八〇銭を五〇銭、普通五〇銭を三〇銭に。
23(土) ●兵庫県但馬地方北部に大地震。全壊・焼失三五一六戸、死者・行方不明四二八人。
24(日) ●総同盟革新同盟全国大会、開催(総同盟から分離して、日本労働組合評議会を結成)。
25(月) ●青島の日本紡績工場で第二次スト(28日、日本と奉天派軍閥がストを弾圧、死者八人)。
26(火) ●内務省、活動写真フィルム検閲規則を公布。
27(水) ●米オペラ歌手、ジョンソンが公演のため来日。
28(木) ●青島のストライキに旅順から駆逐艦二隻派遣。
29(金) ●溝口健二監督、同棲中の女性に斬られる。
30(土) ●上海の共同租界で英警官隊、抗議する中国人デモ隊に発砲(五・三〇事件)。
31(日) ●一月以降の神戸など一二港の入超額四億八七〇〇万円、と新聞に。

◀**宮城の濠に民間機が墜落(6月23日)**陸軍払い下げのニューポール81E型機で、宣伝ビラまきをしていたところ、突然故障、二重橋前に墜落した。幸い、乗組員は二人とも無事だった。

毎日新聞社

「国際画報」

▲**米サンタ・バーバラで大地震(6月29日)**カリフォルニア州南部にある瀟洒な海辺の町が、めちゃめちゃになり、多数の死傷者を出した。写真は、アーリントン・ホテルの惨状。

▶**広州・沙基事件起こる(6月23日)**排外デモを行う数千人の学生・労働者らが、広東の租界・沙基で英仏陸戦隊の銃砲撃を受け、50人余が死亡。中国広東政府は抗議のため、対英経済断交を宣言。写真は遺体の搬送。

毎日新聞社

「写真通信」

▲**陸軍馬術競技大会、開催(6月16日)**愛馬「初緑」で来場した摂政宮、宇垣陸相らの見守る中、東京・代々木練兵場で近衛および第1師団の騎兵が、次々と妙技を披露。

▶**京劇の名優・緑牡丹、来日(6月29日)**まだ19歳ながら、梅蘭芳と並び称される女形。俳優ら32人をともなって東京着。7月1日から東京・帝国劇場で公演を開始した。

◀**目立つ女性の活躍(6月22日)**英国ウィンブルドン・テニス大会の女子ダブルスで熱戦(写真)。結局、1919年から5連勝のランラン・ライアン組が、前年の雪辱をはたした。

「イリュストラシオン」　「写真通信」

## 大正14年6月

1(月)●ブリュッセルで日本・ベルギー通商条約調印。
●五・三〇事件鎮圧のため、日・英・仏・米の陸戦隊が上海上陸。全市ゼネスト、戒厳令。

2(火)●京都市中央卸売市場、認可(昭和2年開場)。

3(水)●東京市、交通調査を実施。銀座では一分間に歩行者一三五人、車両六二台が通行。

4(木)●独の狂乱インフレで大儲けしたフーゴ・スチンネス商会が破綻。

5(金)●警視庁、夜一〇時以降のダンス禁止を通牒。

6(土)●大蔵省、前年度の租税一億円以上増収と発表。

7(日)●農村不況で賭博流行。東京・南多摩郡の農民六十余人を検挙。

8(月)●朝鮮総督府、朝鮮史編修会を設置。

9(火)●大本教、人類愛善会を創立。

10(水)●矢部良策、大阪で創元社創業。

11(木)●上海で五・三〇事件に対する抗議集会が開かれ、一〇万人以上が参加。
●朝鮮総督府、中国側と「不良朝鮮人」の取締りにつき極秘協定(三矢協定)を結ぶ。

12(金)●警視庁の看護婦試験首席合格は一六歳の少女。

13(土)●大蔵省、減配励行に尽力するよう再度通牒。

14(日)●独マンハイムで「ノイエ・ザッハリヒカイト(新即物主義)」の芸術展、開催。

15(月)●北里柴三郎博士の長男が芸妓と心中未遂。

16(火)●仏は安全保障条約についての独提案を承諾。

17(水)●ジュネーブの武器貿易国際会議で、列国が戦時毒ガス使用禁止などの議定書に調印。
●警視庁、大阪の秘密結社「黒社」の幹部二人を最初の治安維持法違反で検挙する。

18(木)●在支日本紡績同業会(10月、在華に改称)設立。

19(金)●香港の労働者、上海に呼応してゼネスト開始。

20(土)●南満州鉄道の社債一億円募集案、可決。

21(日)●浜松駅機関庫に落雷、保線区員が感電し重傷。

22(月)●英語版『源氏物語』、ロンドンで刊行。

23(火)●政府、婦人・児童の売買禁止に関する国際条約(大正10年)につき、適用年齢などで留保宣言。

24(水)●三宅右市ら神戸サラリーメン・ユニオン結成。

25(木)●東京放送局に初の女性アナウンサー誕生。

26(金)●上海のゼネスト終了(対日ストは9月まで)。

27(土)●女性車掌(最低五一円)より低い憲兵の給与改善運動盛り上がる、と新聞に。

28(日)●各婦人団体が合同でソ連大使館員招待会開催。

29(月)●香港労働者一三万人、広州に引揚げ開始。

30(火)●北樺太利権会社代表一行、ソ連へ出発。



# 「現場」を歩く 本郷

## 大学紛争後の改修も再び「安田」が負担した東大大講堂

山本徹美

▲東大大講堂と前庭。大学紛争の象徴だった〝安田砦〟の面影はない。　但馬一憲

大正一四年七月六日午後三時、東京大学で大講堂の落成式が行われた。

別名「安田講堂」と呼ばれるように安田銀行(現・富士銀行)の創業者にして一代で大財閥を築いた安田善次郎が寄贈したものである。大正九年頃、善次郎と交流のあった村上専精文学博士が、

「本学には全学生を収容できる講堂がなく、卒業式に天皇行幸の際、便殿(天皇・皇后の休憩所)もない」

と、訴えたのがきっかけで、寄付を即断即決。同一〇年七月文部大臣の許可がおりると、一一〇万円を寄付した。その二ヵ月後、九月二八日午前九時すぎ、善次郎は大磯の別荘に在宅中、面会を求めてきた暴漢に刺殺される。享年八二。

講堂の方は同年末、内田祥三(第一四代東大総長)・岸田日出刀による概略設計図が完成。面積六九九〇平方メートル、鉄筋コンクリート造り四階建て。塔屋部は九階建てで高さ三九・七メートル。三階と四階が半円形をした講堂の構造で、竣工時の座席数は一七三八であった。

昭和三年三月、初めて卒業式会場となり、同二四年からは入学式の会場としても利用されるようになった。が、昭和四三年三月、研修医制度への反対と大学側の医学生処分に抗議して「全学闘」(医学部全学闘争委員会)が安田講堂を占拠。同二八日の卒業式は中止。四月一二日の入学式は約二六〇〇人の新入生が入場して挙行されたものの「全学闘」が突入、混乱のうちに閉幕。それから約一年間、安田講堂は東大紛争の〝砦〟と化す。

山手線
豊島区
文京区
荒川区
日暮里駅
上野駅
台東区
本郷
新宿区
御茶ノ水駅
中央本線
千代田区

### 時計台か講堂か

平成一〇年春、東大を訪ねてみた。正門に立つと、正面に海老茶色の安田講堂がでん、とそびえている。かつて全共闘の学生でびっしりと埋まった前庭は、今では人影もまばら。大講堂入り口は固く閉ざされていた。ここは一階に見えて実は三階。段差のある土地に建っているせいで、両脇に階段がある。一階には学生部厚生課と学生センターの看板がかかる。

「大学紛争の後、昭和四六年五月に学生部など事務局の一部が大講堂に復帰しました。その後、大講堂利用計画懇談会を設置、平成元年から改修工事にかかり、平成六年七月、便殿など含め工事は完了しました。現在は春季と秋季に開かれる公開講座や学会シンポジウム、卒業式などに利用しています」(東京大学広報課)

改修工事費八億円を善次郎ゆかりの芙蓉会四社(富士銀行、安田生命保険など)が負担した、と聞くとどこまでも「安田」の講堂か、との印象を抱いてしまう。

「全共闘たちは『時計台』と呼んでいた。講堂に愛着を持っているとしたら彼らくらいで、OBの大部分は特別な感慨など抱いていないのでは」(ある卒業生)

大講堂が本当に必要だったのか。善次郎翁の呻吟が聞こえてきそうである。

▲大正13年10月25日に挙行された、大講堂の上棟式。工事は前年2月に開始されたが、9月の大震災で半年の間、中断した。

富士銀行提供

## ベストセラー

# “雑誌界の王者!”「キング」大衆の欲望にこたえて創刊

谷崎潤一郎の『痴人の愛』がこの年七月に刊行され、翌月には三〇版を重ねるほど、よく読まれた。経済的に余裕のある二〇代後半のサラリーマンが、一五歳の少女・ナオミを引き取り、教養を身につけさせたり、趣味をハイカラなものにさせたり、自分好みに育てていく――官能的な要素の強い谷崎独特のファンタジーだったが、ナオミはモダンガールの最先端を走る女性として、映画(作中では「活動写真」)の話やファッションを通して具体的に描かれており、十分刺激的な存在だった。

また堀口大學の訳詩集『月下の一群』が刊行されたのも、この年である。一〇年間の翻訳の中から、フランス近代の詩人六六人の作品三四〇篇を自選したもの。みずから「見本帖」という表題にしようとしたほど、フランス近代詩を概観できる内容を備えていた。ボードレール、ヴェルレーヌ、アポリネール、コクトーなど、そうそうたる詩人たちの作品と、彼らの似顔イラストが並べられた、七〇〇ページ余りの堂々たる訳詩集だった。

▲『痴人の愛』(改造社、2円)

日本近代文学館提供(四点とも)

この年、講談社から雑誌「キング」が創刊されたのも、この時代を象徴する出来事だった。なにしろ発刊の辞にいきなり「キング」は「雑誌界の王者である」と宣言し、その内容の多岐にわたることを「……政客となつては国家百年の大計を画し、軍人となつては国防の急務を論じ……或は白髯の老翁となり、或は無垢なる少年となり……千変万化、不思議なる妙術をその身に体得している」というのだからすごい。実際、創刊号では、高橋是清らが生真面目に天下国家を論じているかと思えば、無名子がナンセンスな各界番付を楽しんだり、村上浪六や吉川英治が小説を書いたり、まさに大衆の多様な欲望にこたえようとする雑誌だった。

▲「キング」(大日本雄弁会講談社、50銭)

▲『月下の一群』(第一書房、4円80銭)

▶『月下の一群』に掲載された“ギイヨオム・アポリネエル像”。

## スターと名場面

# “阪妻人気”を不動のものに「雄呂血」の大立ち回り!

阪東妻三郎主演の時代劇「雄呂血」(二川文太郎監督)がこの年公開され、“阪妻人気”を不動のものにした。牧野省三が総指揮者として名をつらねている。阪妻演じる勤勉な武士・平三郎が、その生一本な性格のために次第に世間からうとんじられ、ついに無頼漢(ならず者)の烙印を押されてしまうというストーリー。追い詰められていく阪妻が、ついに堪忍袋の緒を切って暴れまくる場面には、悲壮感と爽快感があり、大いに受けた。

洋画では、フリッツ・ラング監督の冒険活劇「ジークフリード」が話題を呼んだ。怪獣が火を吹いたり大量の血を流す場面や、ジークフリードが透明になって活躍する場面などの特殊撮影は、映画の面白さを堪能させるものだった。

また、バスター・キートンの長編映画がこの年初めて日本で公開された。作品は「荒武者キートン」。列車で偶然乗り合わせ恋をした女性が、実は自分の敵の娘だったと知ったキートンが、彼女の兄弟たちを相手に獅子奮迅の活躍。随所にもりこまれたユーモラスな映像が映画ファンをすっかり魅了した傑作である。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「月形半平太」(澤田正二郎)／「日輪」(市川猿之助)／「虚栄は地獄」(滝田静江)／「キイン」(イヴァン・モジューヒン)

マツダ映画社提供(3点とも)

▲「雄呂血」で見せた阪東妻三郎の大立ち回り。表情も豊かな乱闘シーンだった。

▶「ジークフリード」の冒頭、ジークフリードが小人に案内され妖しい森に分け入って行く。

▶「荒武者キートン」のバスター・キートン(左)と、ナタリー・タルマッジ(右)。



## モノ語り'25

# 木製容器入りの「星印北海道バター」にポマードと間違えられた「キューピーマヨネーズ」食の欧風化に向けて“国産品”事始め!

▶**記念切手発行とともに進む印刷技術**　この年、外国郵便料金が値下げになり、それを機に新しい切手が発行された。日本の代表的な風景を採用した、いわゆる「風景切手」である。国際化を意識した絵柄更新だった。一方で、大正天皇銀婚式の記念切手が発行され、切手の周囲のマージン部分を初めて銀色インキでオフセット印刷したものも発行されるなど、印刷技術も一段と進歩した。お札と切手の博物館蔵

▲**ライカの向こうを張った優れもの**　ドイツで35ミリ小型カメラ「ライカ」が発売されたこの年、小西六本店(現・コニカ)は、コダック社のベストポケット・コダックの長所を取り入れた「パーレット」を発売した。蛇腹引き出し式のロールフィルムカメラで、画面サイズはベスト判。近接撮影用アタッチメントレンズつき。折り畳みの蛇腹を引き出せばそのまま撮影可能な、固定焦点の便利さが受けて、1台25円という価格にもかかわらず戦前国産カメラのベストセラーとなった。

▼**いよいよ放送メディアの時代に**　ラジオの試験放送がこの年3月1日に東京放送局で始まったが、それに応じて早川金属工業研究所(現・シャープ)は、受信機として「さぐり式小型鉱石ラジオ」を売り出した。木製のフレームに、鉱石、バリアブルコンデンサー(可変蓄電池)、コイルを組み合わせたもので、価格は3円50銭と、さすがに高価なものだった。真空管式も開発されていたが、もっと高価なものだった。
撮影:乙咩雅一／NHK放送博物館蔵

▲**お洒落にも銀座のイメージを求める**　資生堂はこの年、「銀座」というブランドの香水を発売した。黒いボトルで、夜の銀座を人々が行き交う情景を表現したもの。「西にコティの香水〈パリ〉があるように、東に資生堂の香水〈銀座〉があり」という宣伝コピーが話題になった。

▼**マヨネーズにも国産品ができた**　欧米で使われていたマヨネーズを日本でも作ろうとした、食品工業(現・キューピー)が、この年「キューピーマヨネーズ」を発売した。鶏卵の黄身と植物油でできたソースだが、初めてのことだったので、ポマードに間違えられ苦情を受けるという店もあるなど、初年度の売れ行きはさんざんだった。

### 舶来品より安くてよいものを

「キューピーマヨネーズ」を作ったのは中島董一郎さん。農商務省の海外実業練習生として英米で缶詰の研究を行っていたが、マヨネーズに着目、日本で普及すると判断し、帰国後“脱サラ”をして食品工業という会社を興した。しかし、まだまだ食卓にのるには早かったようで、初めは、とにかくどういうものかを知ってもらうのに必死だった。生野菜を食べる習慣がなかったので、魚料理につけるイメージで販売していた。写真はその当時のパンフレットで、キューピーが持っている皿の上にも鮭の料理が載っており、それにマヨネーズがかけられている。

◀マヨネーズを食卓に浸透させるために作られたパンフレット。

▲**初めは木箱に納められていたバター**　北海道の酪農を発展させ、日本の酪農の一大拠点にしようと考えた人たちが、牧場作りや乳牛飼育を協同で行う北海道製酪販売組合(現・雪印乳業)を旗揚げしたのが、この年。さっそくバターの製造にも取りかかったが、攪拌機も手回しなど、すべて手作り。最初は販路も決まっていなかったが、酪農発展のためにと、明治屋などが協力してくれて「星印北海道バター」の販売にこぎつけた。明治屋では400グラム入り1円35銭で販売。写真は当時の容器で、木製だった。

▲晩年の牧野省三。明治40年の「本能寺合戦」以来、20年間に約350本の映画を製作。長男のマキノ正博など多くの監督、スタッフ、俳優を育成した。　牧野登希子提供



人物クローズアップ

# 牧野省三（四六）

## "阪妻"や"アラカン"も発掘！「日本映画の父」、独立プロ創立

京福電鉄・北野白梅町駅から三つ目の妙心寺駅の北側に、大正一四年六月、牧野省三（四六）が御室撮影所を開設し、同時に映画製作会社・マキノプロダクションがスタートを切った。

牧野は四年前の大正一〇年四月、日活京都撮影所を辞め、同年九月にマキノ教育映画製作所を設立。撮影所を、自宅に近い北野の等持院境内に開設した。常日頃「歌舞伎はあかん」と言い、真に迫った立ち回りを主張していた牧野の、独立第一作が「実録忠臣蔵」だった。実感あふれる写実的な画面が客席にぐいぐいと迫る。この試みは成功し、一二年四月、マキノ教育映画製作所はマキノ映画製作所に発展。さらに一一月には、資本金五〇万円のマキノキネマに規模を拡大し、マキノの製作する時代劇映画は質量ともに他を圧倒した。

しかし、マキノの台所はいつも火の車だった。一三年六月、マキノキネマは東亜キネマに等持院撮影所ごと身売りをする。牧野が作家の直木三十五と出会ったのは、その後だった。直木は、各界の第一人者を集めて連合映画芸術家協会を発足、独立プロが自由競争によって製作・公開ができるよう、映画界の刷新をめざしていたのである。マキノプロの設立には、こうした背景があった。

牧野省三は、明治一一年九月二二日、京都府桑田郡山国村（現・京北町）生まれ。しかし、父母はその年に離婚し、省三は母・弥奈のもとで育った。牧野の姓は母方のものである。離婚した母は芝居小屋と置屋を経営、また義太夫芸妓でもあったことから、出稽古などをして子どもたちを育てた。牧野の家を継いだ省三は、母の手伝いをしながら、芸事や芝居のノウハウを身につけていった。明治三四年、芝居小屋は改装されて千本座となり、省三はその座主をまかされ、劇場のいっさいを切り盛りすることになった。

牧野と活動写真とのかかわりは、横田商会（後の日活）の横田永之助との出会いにあった。活動写真に先鞭をつけようとしていた横田は、狂言作家で演出家で、経営者でもある牧野に目をつけたのである。明治四〇年のことだった。

映画人としての牧野の最大の功績は、「目玉の松ちゃん」こと尾上松之助の抜擢だった。松之助のほかにも、牧野のまわりには才能豊かな俳優たちが集まった。日活独立後の牧野教育映画製作所には、阪東妻三郎が入社。大スターとしてマキノの全盛時代を作りあげた。またマキノプロには、市川右太衛門、嵐寛寿郎、片岡千恵蔵などの若手が入社。今までにないさっそうとした演技で、たちまちスターの座にのし上がっていった。

映画評論家の品田雄吉氏は、牧野省三を次のように評価する。

「映像でしか表現できない活動写真の面白さを、徹底的に追求した人だと思います。それまでの活動写真は、舞台から脱却できなかったんですね」

しかし、マキノプロの繁栄は長く続かなかった。昭和四年七月二五日、牧野が五〇歳で亡くなると、経営難が一気に表面化、俳優陣も四散して、昭和七年、その短い歴史を閉じるのである。

▶大正一五年、日活の「忠臣蔵」（池田富保監督）に出演中の尾上松之助（中央右）を、陣中見舞いに訪れた牧野。松之助はこの年没した。　平凡社提供

◀マキノプロの機関紙「マキノ映画」。表紙は嵐長三郎（後の寛寿郎）。　マツダ映画社蔵

**決定的瞬間**

# “ヒコーキ野郎”に喝采！大戦の英雄たちが生んだ華麗なる曲芸飛行の時代

時速一一〇キロで飛んでいる飛行機の翼の上でテニスをする“ヒコーキ野郎”たちがいる。もちろん、彼らは命綱で体を固定して、この演技を行っているのだ。地上にいる観客は、料金を払って危険なショーを楽しんでいる。それは一見のどかで平和な光景だが、第一次世界大戦が終わって「もう戦闘機乗りはいらない」という現実を如実に伝えている写真でもある。

飛行機は一九〇三年にライト兄弟が「フライヤー」で動力飛行に成功（飛行距離三六・五メートル、飛行時間一二秒）して以来、特に一九一四年に勃発した第一次世界大戦を機に、飛躍的に発展する。大戦中に製造された飛行機の数は、枢軸国、連合国合わせて一七万七〇〇〇機にものぼり、エンジンや飛行技術の進歩で、軍事利用の範囲は偵察から空中戦、空爆へと広がっていった。中でも空中戦は、技術、経験、勇気などきわめて人間的な総合戦として、数多くの英雄を生み出した。敵機を五機以上撃ち落とすと「エース」と言われ、イギリスで五三二人、ドイツ三六五人、フランス一五八人、アメリカ八八人のエースが出現した。ドイツの赤髭男爵、マンフレード・フォン・リヒトフォーヘンは敵機を八〇機も撃墜して、第一次世界大戦最高のエースと賞賛された。

大戦の後半（一九一七年四月）から戦争に参加したアメリカでは、一年後の終戦とともにパイロットたちが“失業”し、大量の飛行機が余剰物資となった。特にジェニー機（JN-4D型練習機）は数千機が戦争終結後完成したため、一機三〇〇ドルという安値で放出される。アメリカ空軍の英雄たちは、こうした飛行機を手に入れて農薬散布やニュース写真の空輸、郵便輸送、旅客輸送（乗客は一人か二人しか乗せられないので儲からなかった）などの仕事に従事した。一九二七年にニューヨーク―パリ間を、初めて単独無着陸で飛んだリンドバーグも、航空郵便パイロットだった。

ところが、一方では密輸品（おもに酒）の輸送業に手を染めたり、遊覧飛行や空中サーカスのパイロットとして稼ぐ一匹狼的な男たちもいた。当時の模様をリアルに描いたロバート・レッドフォード主演の「華麗なるヒコーキ野郎」（一九七五年、ユニバーサル）という映画は、草原に降り立った主人公が「わずか五ドルで、天国の五分間が体験できるよ」と遊覧飛行の呼びこみをするシーンから始まる。

映画には、空中サーカスをしながら地方巡業をする一座が登場する。彼らは飛行機で宙返りをしたり、飛行機から飛行機に乗り移ったり、という過激なショーで観客を喜ばせる。しかし、曲芸飛行をするパイロットたちの心の中には、空を飛び続けたいという願望と、第一次大戦で勇敢に戦ったという誇りがあった。映画の主人公はかつてのドイツの英雄と出会い、お互いの技量を競い合うことになるが、そこには時代に取り残されていく空の英雄たちの哀感が描かれていた。

一九二〇年代は、禁酒法とチャールストンに代表されるにぎやかな時代として記憶されているが、パイロットたちにとっては生きにくい時代だった。複葉機から単葉機へ、空中戦から郵便、旅客輸送へと変化していく時代のはざまを、ヒコーキ野郎たちはアクロバット飛行をしながら駆け抜けていったのだ。

▲機上の空中テニスは、当時の喝采をあびた曲芸のひとつだった。熟練したパイロットである巡業飛行士たちにとって、曲芸は見かけほど危険なものではなかったが、興行で得る報酬はごくわずかなものだった。CORBIS/BETTMANN・PPS

美の出会い

# パリを描き、パリに散った“夭折の天才”佐伯祐三 サロン・ドートンヌ入選！

大正一四年、モンパルナスの駅に近いパリ一五区リュ・デュ・シャトー一三にあるアトリエで、一人の日本人画家が全力をふりしぼって画業に打ちこんでいた。パリ滞在二年目になる佐伯祐三（二七）である。彼は、一〇号（普通五三×四五・五センチ）から二〇号のキャンバスを一日に三枚も描き上げるような日もあった。古いパリのたたずまいが残り、場末らしい商店の壁には広告が何層にも貼られているこの街に魅せられた佐伯は、街角にイーゼル（画架）を立てることもあった。

この年の九月、彼は第一八回サロン・ドートンヌに初めて「コルドヌリ（靴屋）」と「煉瓦屋」を出品し入選。同時に妻の米子（二二）が出品した「アルルのはね橋」も入選した。サロン・ドートンヌは一九〇三年にマチスやルオー、マルケらによって創立された美術公募展で、毎年秋にパリで開催されている。同展への入選は、画家をめざすものにとって大きな励みであった。入選の知らせに米子は大喜びだったが、佐伯の関心は別のところにあった。ようやくパリのモチーフを見つけ出したという感触を得たのである。佐伯自身も友人にあてた手紙の中で「サロン・ドートンヌと言うのは、日本できくとよいが、中々そんなに立派なものではない」と、あまり喜んだ様子は感じられない。

ところが展覧会の初日に、ドイツの絵具会社に作品が売れ、その後、アトリエを訪れた客に、七枚の作品が売れ、「四、五百円もうけたのはありがたかった」と彼は手紙に記している。これまでやってきた手法に、佐伯はたしかな手ごたえを感じ取ったようだ。

明治三一年四月二八日、大阪府西成郡中津村（現・大阪市北区中津）の光徳寺住職の次男として生まれた佐伯祐三は、北野中学校四年生の頃、赤松麟作の画塾にかよい、大正六年に上京し、川端画学校で藤島武二の指導を受けている。そして翌七年には東京美術学校西洋画科に入学。在学中の九年に池田米子と結婚し、豊多摩郡落合村にアトリエを新築する。大正一〇年に作家の武者小路実篤の家でゴッホの「向日葵」を見せてもらい、次いで同級生の山田新一が丸善で入手したボラール版『セザンヌ画集』を見たことが、佐伯のパリ行きに火をつけた。

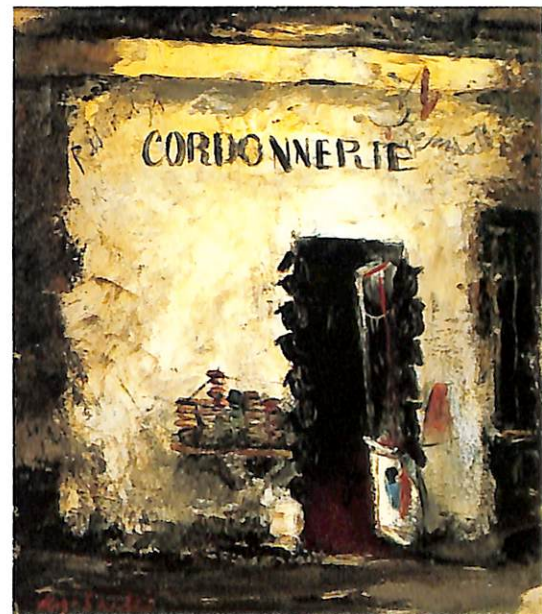
東京美術学校を卒業した翌年の大正一三年一月三日、佐伯祐三は妻・米子と長女・彌智子をともない、パリに到着。本格的に画業に取り組もうとする。だが佐伯芸術が誕生し、奔流を開始するのは、その年の夏、フォーヴィスム（野獣派）の巨匠・ヴラマンクとの出合い以降である。彼はパリ滞在三年になる画家・里見勝蔵にともなわれ、五〇号の「裸婦」を持ってヴラマンクを訪れた。この時の出合いについて、佐伯の中学時代からの友人である阪本勝は評伝『佐伯祐三』の中で、次のように記している。

「佐伯の作品を前にしたブラマンクは、『アカデミック！　アカデミック！』とさけぶように言って、二人がその家を辞去するまで、一時間半もアカデミック攻撃をやめなかった」

ヴラマンクから見ると、佐伯の作品はあまりにも「アカデミック」だったのであろう。ヴラマンクに一喝をくらった佐伯は、この訪問から帰った後、妻・米子が驚くほど人が変わったように画業に打ちこんでいった。その直後に描かれた「自画像」の激しい筆致を見ると、ヴラマンクとの出合いの衝撃がいかに大きかったかがうかがえる。

大正一五年に一時帰国した佐伯は、九月の第一三回二科展に、パリで描いた一九点の作品を特別出品して二科賞を受賞した。国内で湧き上がる称賛の声を後に、昭和二年八月、佐伯は進行する結核を抱えて再度パリに向かう。日本では彼の画題となる風景をみいだすことができなかったからである。

第二次パリ滞在の五ヵ月目には、一〇〇枚を超す作品を描くほどのすさまじいばかりの制作を続ける。しかし、翌三年、「郵便配達夫」「ロシアの少女」などの傑作を最後に、佐伯祐三はセーヌ県ヴィル・エヴラール精神病院で三〇歳の短い生涯を閉じた。

▲佐伯祐三。制作に没頭するあまり、神経をも衰弱させていった。

▲「コルドヌリ（靴屋）」大正14年。油彩、54×47センチ。パリのアトリエの並びにあった靴屋を描いたもの。同じ店先を何点か制作しているうちの1枚である。

茨城県近代美術館蔵

▲「郵便配達夫」昭和3年。油彩、79.5×63.8センチ。モデルは、アトリエにやって来た白髪の配達夫。この頃微熱が続いていた佐伯は、この作品を描いた後、まもなく大喀血を起こす。

大阪市立近代美術館建設準備室蔵

**20世紀博物館**

# 所沢航空発祥記念館

埼玉・所沢市

## 国産一号機「会式一号」はじめ数々の名機で楽しむ〝革命的〟技術の粋

桑原茂夫

この「所沢航空発祥記念館」は、昭和五〇年まで米軍の補給基地として機能していた所沢飛行場の跡地にある。もっとさかのぼれば、所沢飛行場は明治四四年に日本で初めてできた飛行場であり、終戦まで日本軍の重要な基地だった。つまり所沢という地は、もともと飛行機と縁の深いところだったのである。

だから、最寄り駅の西武新宿線航空公園駅の前に飛行機がでんとおいてあっても不思議はないのだ。とは言っても、初めてこの地を訪れる人はど肝を抜かれることになる。日本初の国産旅客機としてつい先だってまで活躍していた「YS11型」機の実物が、目の前にあるのだから。

そして、この驚きがおさまらないうちに「航空発祥記念館」に着く。

▲「会式一号」機。こういう物体が宙に浮かび上がるというのは、やはり不思議なことだ。

▲手前に「セスナT310QGA」が分解展示されている。操縦席に入って、ヒコーキ乗りの気分を味わうこともできる。右奥に民間機として活躍した「セスナ170B」機が見える。

建物の中に入ると、玄関ホール頭上に、複葉機が一機浮かんでいる。明治四四年に所沢飛行場で陸軍の国産機初の公式飛行に成功した「会式一号」機である。エンジンの馬力は現在の軽自動車程度。専門家に言わせると「よく飛んだもの」だそうで、いつも墜落とは紙一重だった。

当然この頃の飛行家は、誰もが際どい体験をしていた。大正一四年に操縦士になった岩田正夫も、その一人だ。岩田は操縦士になると、さっそく郷里の埼玉県比企郡に訪問飛行を行った。これには郷土の人々も興奮し、いち早く着陸地点に近づこうとした。まだ飛行機の着陸の様子も知らないので、無理もないことだった。岩田はこれを避けようと急上昇をはかったが、機体の一部が土手に触れてしまったという。幸い墜落はまぬがれたが、この時に損壊した機体の一部が館内に展示されている。目立つようなものではないが、黎明期の飛行機が人々にもたらした興奮がそこから伝わってくる。

◀手前は、長さ六メートルという大きな客室を持つヘリコプター「バートル44」。その向こうに見えるのは、名機「シコルスキーS55」だ。

ところでこの記念館には、合計十数機の小型飛行機やヘリコプターの実物が並べられたり吊るされたりしている。どれもこれも、いわゆる名機だ。映画の中で、あるいは報道写真で、はたまた飛行場の近くで目にしたことのある機も少なくない。しかも、これらをただ眺めるだけでなく、機内に入ったり、ディテールを確かめることができるのだ。

ほかにも、飛行の原理や動植物の飛行の様子などが見られるコーナーや、ジャンボ・ジェット機の操縦シミュレーション・コーナー、コンピュータによる飛行機データ検索コーナーなどもあって、マニアならずとも、じっくり飛行機という二〇世紀を象徴する技術成果を楽しむことができる博物館なのである。

**●所沢航空発祥記念館**
埼玉県所沢市並木一丁目地内
☎〇四二九—九六—二二二五
西武新宿線航空公園駅下車、徒歩八分
開館時間＝九時半〜一七時
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般五二〇円

▲記念館に着く前、駅前でいきなり出合う「YS11型」機。ここは、まさしく飛行機の町なのである。



# 20年ぶりの早慶戦、そして東大も参加 〝日本最強〟を決める真剣試合にファン熱狂！

# 「東京六大学野球リーグ」戦、スタート！

大正一四年秋、二〇年ぶりに早慶戦が復活し、帝大（東大）も加盟した六大学野球連盟が結成された。第一シーズン目の覇者は一〇勝一敗の早大、そして今日までの一三七シーズンの熱闘の中から数々の名選手が生まれ、日本野球界の礎を築き上げたのである。

▲大正15年の六大学主将たち。後列右より保野（法）、清水（東）、青木（慶）、前列右より氷室（早）、林（明）、原（立）。　吉澤野球史料保存館提供

## 六大学野球リーグ最初の覇者は早大

「私を六大学野球の虜にしたのは、早稲田大学とアメリカのシカゴ大学の試合を戸塚球場（後に安部球場）で兄と観戦中の写真が、翌大正一四年九月二四日の『東京朝日新聞』に載ったからです。もう感激でした。当時小学校六年生の一一歳。翌年の中学受験を控えていたが、母を説得し船橋から汽車で両国、そこで市電に乗り継ぎ、二時間以上もかけ、取りつかれたように野球を観て歩きましたよ」

こう語るのは、野球熱が高じ、その後

▲10月19日の復活早慶戦の初戦に、早大・戸塚球場を立錐の余地なく埋めつくした大観衆。午後2時30分、熱戦の火蓋が切られると、歓声は「雷のごとくに」轟いた、と当時の新聞は伝えている。「国際画報」

吉澤野球史料保存館（下5点とも）

▲慶大・宮武三郎。昭和3年。

観戦した試合の入場券、雑誌や新聞など、六大学野球の宝物とも言える貴重な資料を保存している㈶吉澤野球史料保存館理事長の吉澤善吉氏（現・八四歳）である。

第一回の六大学野球リーグ戦の開幕戦は、大正一四年九月二〇日の日曜日、駒沢球場で行われた。

対戦は明治大学と立教大学。午後二時五五分から始まったこの試合は、七対一と明治大学が圧勝し、リーグ緒戦を飾る。そしてその後、各校二試合ずつの総当たりリーグ戦が繰り広げられていった。

とりわけ注目を集めたのは、二〇年ぶりの対戦となる早慶戦であった。明治三九年、過熱した両校の応援団の感情が険悪になったことから、早慶戦は中止となっていた。その復活第一戦が実現したのは、一〇月一九日の月曜日、戸塚球場でのこと。雨のため二日間延長されたこの日は、絶好の野球日和となった。

熱狂したファンは午前九時の開門を待ち切れず、午前四時前には球場のまわりに姿を現した。入場料の相場は内野が一円、外野五〇銭と、公務員の初任給七五円からみて、けっして安くはなかったが、正午には一万五〇〇〇人収容のスタンドは超満員となった。しかも、球場に入れなかった人たちは、付近の屋上や電柱に鈴なりになるありさまであった。

シートノックの後、早大の安部磯雄教授（六〇＝野球部長）がグラウンド中央の二塁ベース付近に進み出て早慶戦の復活を宣言し、観衆に節度ある観戦を望むことを呼びかけた。そして二時三〇分、一シーズン一〇九個という不滅の奪三振記録を持ち、明大の投手としても活躍する湯浅禎夫（二二＝後に毎日監督）主審のプレーボールで、記念すべき復活第一戦が始まった。

当時は早大の黄金時代であった。エースの竹内愛一（二三）、藤本定義（二〇＝後に巨人軍監督）らの投手陣が充実し、日本初のスイッチ・ヒッター山崎武彦（二四）、根本行都（二二）、井口新次郎（二二）、氷室（後・芥田）武夫（二三＝後に近鉄監督）といった強打者がそろっていた。対する慶大は新人が多く、発展途上のチームで、身長一五八センチと小柄ながら、昭和九年に来日した、ベーブ・ルースら全米オールスターチームとの試合で好投するエースの浜崎真二（二三＝後に阪急監督）は持病の喘息が出てまったくの不調。試合は早大が二回に井口、氷室らの集中打で一挙五点をもぎとり、勝利を決定づけた。

慶大は竹内の微妙なコントロールに翻弄され、八回までノーヒット。九回、ようやく三谷八郎（一九）がショートの頭上を越す安打を放ち、辛くもノーヒット・ノーランをまぬがれたが、一一対零と完敗に終わり、翌日の第二戦も七対一で早大が快勝した。結局、早大はその後も勝ち進み、六大学リーグ初の覇者になった。

ちなみに、リーグ戦の順位は、早大、明大、慶大、帝大、立大、法大の順であった。そして三割四分三厘を記録し首位打者となった早大の氷室は、東京日日新聞社（現・毎日新聞社）より、記念品として打者をかたどったブロンズ像トロフィーを贈られたのである。

## 一三七シーズンの熱戦で優勝回数トップは法大

日本の野球は学生野球として始まった。初のチームは、明治一一年、アメリカから帰国した鉄道技師・平岡凞が結成した「新橋倶楽部・アスレチックス」で、学生を招いては野球を広めていった。それが全国の旧制高校へと伝わり、明治二〇年代の「一高野球黄金時代」を築き上げる。そして、「打倒一高」の旗手として登場したのが、早稲田と慶応であった。その後、明大野球部も誕生し、この三大学で、大学野球の組織化が話し合われたのが、大正三年。現在にいたる東京六大学野球の基盤である。

六大学野球は、昭和一〇年に日本初の職業野球（プロ野球）チーム「大日本東京野球倶楽部」（後の東京ジャイアンツ）、「大阪タイガース」が誕生し、翌年から本格的試合が始まるまでは、日本で最強の真剣試合であった。「昭和一一年当時でもプロに匹敵、いやそれ以上の実力を持っていた」（吉澤氏）のである。

戦後初の東京六大学リーグ戦が開幕したのは昭和二一年五月一九日、上井草球場でのことであった。そしてその後、六大学野球は、日本のプロ野球界を支える大スターを続々と生み出していった。

早大の内野手だった元西武ライオンズ監督の広岡達朗、通算八本塁打の記録を達成した立教の長嶋茂雄（現・読売巨人軍監督）、ノーヒット・ノーランを達成した明大の星野仙一（現・中日ドラゴンズ監督）などの活躍ぶりは、野球ファンを熱狂させたのである。

六大学野球リーグは、平成九年秋で通算一三七シーズンを終えた。その間、昭和一五年春の、慶大、明大、立大同率のための優勝預かりをのぞくと、これまでの優勝回数は、法政が三七回、早稲田が三一回、そして明治二九回、慶応二八回、立教一一回である。

▲明大の剛腕・湯浅禎夫（右）と東大のエース・東武雄。大正14年。

▶早大のスラッガー・井口新次郎。大正一四年。

◀昭和五年秋、リーグ初優勝の法大・鈴木茂投手。

▲立大のエース・辻猛。昭和6年。

日録 20世紀 1925

# 7~8月

## フォト＋日録で再現する365日

「イリュストラシオン」

▶アムンゼン、北極横断飛行(7月5日)5月に出発以来、4週間消息を絶ち安否を気づかわれていたが、6月、スピッツベルゲンに戻ってきた。この日、シルクハット姿でオスロに帰還。エンジン故障のため極点直前で断念。

◀槇有恒らアルバータ征服(7月21日)未踏のカナディアン・ロッキーの巨峰(3619メートル)に日本山岳会パーティーが挑戦。東山稜から初登頂。写真は、装備の点検をする槇。

「イリュストラシオン」

▲米国で進化論論争(7月21日)テネシー州の高校でダーウィンの進化論を教えた教師が、州法違反で罰金100ドルの刑。「人間はサルの子孫」とする進化論は、聖書に反するとされた。

▼もてもてタイピスト嬢(7月18日)鉄道院が速記タイピストを養成するなど、大震災以降の洋風化・国際化の中で需要が増大。写真は東京・四谷模範女学院で開かれ、大にぎわいの競技会。

▶ヒトラー『わが闘争』出版(7月18日)自伝色の濃い上巻を刊行。マルクス主義とユダヤ人を悪とし、アーリア人の世界制覇を当然とする思想で貫かれている。

▼東京・新橋、渡り初め(7月20日)明治32年来、初の改築。万国旗と紅白の幕がはためく祝賀式が開かれ、午砲を合図に絣袴の子どもが除幕。群衆も市長ら来賓に続いた。

「写真通信」

▼伏石小作争議、公判始まる(7月17日)香川県高松で小作料滞納に対して差し押さえられた稲立毛を、小作人が刈り取って保管し、地主に窃盗罪で起訴された。写真は弁護団。

「国際画報」

### 大正14年7月

1(水)●広東国民政府、成立(汪兆銘、廖仲愷、胡漢民、蔣介石ら政治委員一六人の合議制)。
●民間の太平洋問題調査会、ホノルルで開催。
2(木)●京成電車延長反対の住民が東京市役所に陳情。
3(金)●荷馬車一二台の砂利泥棒、東京・駒込で逮捕。
4(土)●日本とラトビアが通商航海条約に調印。
5(日)●福岡県貝島炭鉱で一万五〇〇〇人がスト。
6(月)●東京帝大講堂(安田講堂)、竣工式。
7(火)●無産青年同盟準備会結成。
8(水)●北海道寿都町で大火、一三一戸焼く。
9(木)●日本工業倶楽部、国際商業会議所加盟を可決。
10(金)●貴族院、伯・子・男爵議員(一五〇人)選挙。
●細井和喜蔵『女工哀史』刊行。
11(土)●芝浦製作所の工員二五〇〇人が解雇者一八人の復職を要求してストライキ。
12(日)●東京放送局(JOAK)本放送開始(聴取者五四五五世帯、受信料月一円)。
13(月)●米オレゴン州で排日暴動が起こる。
14(火)●仏軍、ルールからの撤兵開始(31日、完了)。
15(水)●名古屋放送局(JOCK)、本放送開始。
16(木)●鉄道省、本州・四国の機関車に自動連結器取り付け作業を実施。
17(金)●京城(現・ソウル)で大洪水。死者四〇〇人余。
18(土)●ヒトラーが獄中で書いた『わが闘争(マインカンプ)』上巻、刊行。
19(日)●満鉄から事業分離し、南満州瓦斯会社設立。
20(月)●東京放送局がテキスト発行し、語学講座開始。
21(火)●ボールドウィン英首相、炭鉱ストの先手を打って賃金紛争解決まで補助金支出を決める。
●槇有恒ら、ロッキー山脈アルバータに初登頂。
22(水)●仙台米穀取引所、不当処分取消行政訴訟敗訴。
23(木)●日本郵船、上海航路を復活させる。
24(金)●帝劇、澤正(澤田正二郎)一座の出演を機に四階席を廃し、民衆的に改善と新聞に。
25(土)●朝日新聞社の訪欧飛行機「初風」「東風」が代々木を出発(10月27日、ローマ着)。
26(日)●仏とスペインがモロッコの反乱鎮圧目的に、リーフ住民鎮定の共同行動に関する協定調印。
27(月)●呉の海水浴場に海軍工廠試射の水雷が着岸。
28(火)●大阪に住友信託設立。
29(水)●日本共産党事件の佐野学が帰国し、自首。
30(木)●日英通商航海条約の補足条約に調印。
31(金)●加藤内閣、税制整理案をめぐる政友・憲政両党の協調が破綻したため総辞職。



「国際画報」

▼淀川の西成大橋が崩壊(8月18日)豪雨による出水のため、全長約735メートルの橋梁がずたずた。翌年、阪神国道開通で架け替え、現在の淀川大橋となった。

「写真通信」

▲東京市内一斉にハエ退治(8月15日)この日を「蝿捕りデー」とし、車を使って街頭宣伝、ビラまきを行い周知徹底をはかった。ハエは腐敗物や糞などに集まり、この頃流行のコレラなど伝染病の媒体として恐れられていた。

毎日新聞社

▲大胆になった女性の水着(8月)女学校の制服に、セーラー服が普及。洋風化・洋装化が一層進み、水着も袖のついたものからノースリーブになり、肌の露出度がぐっと増した。

「国際画報」

◀「KKK」、ワシントン大行進(8月8日)白人による支配の復活・反黒人を唱える米国の秘密結社「クー・クラックス・クラン(KKK)」が第1回全国大会を開催、団員20万人が集結した。

毎日新聞社
毎日新聞社

◀▲「八坂丸」の金塊引揚げ(8月7日)日本深海工業所が、地中海のポートサイド沖で、木箱20箱、10万ポンド分全部を回収。第1次大戦中、ロンドンから東京に運ぶ途中、独潜航艇に撃沈されたもの。

### 大正14年8月

1(土)●付属病院入院に教授が紹介料を取った疑いの九州帝大事件で福岡地裁検事が上京、報告。
2(日)●憲政会単独で第二次加藤高明内閣成立。
3(月)●米海兵隊、一九一二年以来駐留していたニカラグアから撤退。
4(火)●閣議、国税整理案大綱を決定。
5(水)●皇太子、樺太行啓のため横須賀を出航。
6(木)●逓信省、簡易保険最高額五〇〇円に引き上げ。
7(金)●日本深海工業所、一〇年前地中海で独潜航艇に撃沈された「八坂丸」の金塊引揚げに成功。
8(土)●秘密結社「クー・クラックス・クラン(KKK)」がワシントンで第一回全国大会開催。
9(日)●六郷橋—蒲田間で電車に投石、乗客重傷負う。
10(月)●第一回無産政党組織準備協議会、大阪で開催。
●豊田喜一郎、杼換式自動織機の特許を取得。
11(火)●長崎にコレラ発生。内務省、流行地に指定。
12(水)●萩原朔太郎『純情小曲集』刊行。
13(木)●東京放送局がヒューズ作、小山内薫訳・演出の初のラジオドラマ「炭坑の中」を放送。
14(金)●パリで独・仏が、関税条約・国境協定に調印。
15(土)●東京全市で「蝿捕りデー」実施。
16(日)●ニューヨークでチャップリンの脚本・演出・主演による「黄金狂時代」が封切られる。
17(月)●巣鴨刑務所跡への海軍水路部移転に地元反対。
18(火)●内務省、労働組合の権利を保障する社会局原案の労働組合法案を発表。
19(水)●川崎の富士紡の女子工員千余人が食中毒。
20(木)●東京地裁、第一次共産党事件に判決。堺利彦・徳田球一・佐野学ら一〇人に禁固一〇カ月。
●中国国民党左派の廖仲愷が暗殺される。蔣介石は胡漢民ら右派を排除へ。
21(金)●日暮里駅構内で旅客列車衝突、一七人重軽傷。
22(土)●中国から米への留学生一六〇人が東京見物。
23(日)●朝日新聞訪欧機、モスクワ着(七〇四時間弱)。
24(月)●フランス美術展の裸体画を警視庁が検閲。
25(火)●独賠償不払いに対する制裁占領が終わり、仏軍がデュッセルドルフなどから撤退。
26(水)●ロンドンの共産党本部捜索(キャンベル事件)。
27(木)●朝鮮銀行臨時株主総会、半額減資・積立金取りくずしなどの損失整理案を決定。
28(金)●輸出・工業両組合法による重要輸出品を指定。
29(土)●メートル法に関する条約公布。
30(日)●水害後の東京に真性コレラ発生、二人死亡。
31(月)●逓信省電気試験所、米KGO局の放送初受信。

▶帝国議事堂、ほぼ全焼(9月18日)貴族院政府委員室から出火、軒続きの衆議院も類焼、両院本館がほぼ燃え尽きた。折から壁の塗り替えなど補修工事中で、ペンキに作業中の火が引火したのが原因。

「国際画報」

◀世紀の奇術師、フーディニ(9月14日)米ピッツバーグの劇場でショーを行い、枷で足の自由を奪われながら水槽から抜け出す「箱抜け」(写真)を実演、喝采をあびた。しかし、10月末、腹膜炎で急死。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▶早大・高石勝男、200自で世界新(9月20日)東京・芝公園プールで行われた第4回全国学生水上競技大会で、2分17秒8を記録。25ヤードプールの換算では、米国のワイズミューラーが上回っていた。

「国際画報」

▶英第4皇子・ジョージが来日(9月15日)非公式訪問だったが、東京駅で高松宮の出迎えを受け、翌日、明治神宮に(写真)。宮中豊明殿の祝宴では、摂政宮と大正10年の旧交を温めた。18日、離日。

「国際画報」

▶日本陶器、IBM計算機を導入(9月)現・ノリタケが全企業に先駆けて、名古屋工場にパンチカード式のものを設置。注文伝票の処理や集計を行い、後には原価計算・生産管理にも応用。

日本IBM提供

◀戎橋、改築(9月5日)道頓堀川に架かる、大阪の商店街・心斎橋筋と戎橋筋を結ぶ橋。長さ約37メートル、幅約11メートル。大阪都市計画事業の一環として、鉄製から石造に強化された。

毎日新聞社

## 大正14年9月

1(火)●台湾銀行株主総会、損失整理案を決定。
●オリンピックの創始者、ピエール・ド・クーベルタンがIOC会長を辞任。

2(水)●日仏芸術社主催第三回フランス美術展を開催。

3(木)●平壌の貞桐炭坑で爆発、死者一五〇人。

4(金)●横浜にコレラ患者続発、千葉方面にも広がる。

5(土)●海軍と大蔵省は製艦計画変更による民間企業の損害二六〇〇万円補償を決定。

6(日)●小樽取引所、うずら豆暴騰で立ち会い停止。

7(月)●コレラ蔓延防止に東京湾の漁業と遊泳を禁止。

8(火)●阪東妻三郎、独立し阪妻プロ新設。

9(水)●ペタン将軍指揮の仏・スペイン連合軍、リーフ住民への大攻撃を開始。

10(木)●逓信省・山田守設計の東京中央電信局完成。

11(金)●濃尾地方に大暴風雨、名古屋で浸水二万戸。

12(土)●大蔵省、同一地区専業組合の共通商品券許可。

13(日)●独の合同社会民主党がハイデルベルクで大会を開き、「ハイデルベルク綱領」を採択。

14(月)●奇術師・フーディニ、米ピッツバーグでショー。

15(火)●書留用一三銭切手、発行。

16(水)●米ファイアストーン・ゴム会社がリベリアに借款供与。四〇万エーカーの土地が担保。

17(木)●大蔵省、朝鮮銀行と台湾銀行への預金部資金貸付利率を五~七分から二分に引き下げ。
●堀口大學訳『月下の一群』刊行。

18(金)●修繕中の帝国議会議事堂、全焼。

19(土)●シカゴ大の野球チーム来日、早大などと対戦。

20(日)●第一回貴族院帝国学士院会員議員選挙。
●政府、保有正貨四〇〇〇万円を米国に現送。
●共産主義の合法機関紙「無産者新聞」創刊。
●東京六大学野球リーグ戦、開始。

21(月)●ソ連労働組合代表のレプセら来日。

22(火)●東京商科大学、創立五十周年記念式。
●所沢・千葉などで陸軍最初の航空大演習。

23(水)●褐色の踊り子ジョセフィン・ベーカーのレビュー、パリで大人気。

24(木)●真言宗八派の連合宗制を解体、各派自立へ。

25(金)●三省堂より金沢庄三郎の『広辞林』刊行。

26(土)●河原崎長十郎らの心座第一回公演、カイザー作「ユアナ」ほかを築地小劇場で上演。

27(日)●ラジオ劇役者募集に声自慢が応募、と新聞に。

28(月)●原田淑人らが漢代の楽浪郡の古墳を発掘。

29(火)●英労働党、共産党員の入党と代議士選出禁止。

30(水)●ギリシャ、共和国憲法を公布。



CORBIS-BETTMANN/PPS

▲パリに「褐色のエロチシズム」(9月23日)シャンゼリゼー劇場の「黒人レビュー」に混血の踊り子、ジョセフィン・ベーカーが出演、フラミンゴの羽根だけの半裸でチャールストンを踊り、男性の官能をそそった。

「写真通信」

▲上野駅前に婦人職業紹介所新設(10月8日)東京市が、東北地方からの求職女性の便宜をはかった。大正10年制定の職業紹介法に基づき、前年3月の水道橋支所が最初。

「国際画報」

▲第2回国勢調査実施(10月1日)午前零時までの現在人口が対象。公園や土管の中にまで目を走らせた。写真は、東京市に繰り出す街頭宣伝隊とビラ。12月に概要発表、本土総人口は約5918万人となった。

「イリュストラシオン」

◀対独制裁を解除(10月16日)英・独・仏・伊などのヨーロッパ首脳がスイスのロカルノに集合、国境の現状維持、相互不可侵とともに合意に達した。12月1日に正式調印され、翌年、ドイツは国際連盟に加盟した。

▶シリアで反仏暴動(10月14日)第1次大戦後、委任統治領となり仏軍が進駐、抵抗運動が続いていた。18日、仏軍の報復で首都・ダマスカスは惨たんたるありさまとなった。

「国際画報」

▼日本初の航空大演習(9月22日)所沢、立川、下志津原の航空隊、約160機が東西に分かれ、28日まで代々木、江戸川上空などで空中戦。写真は大任をはたし国府台練兵場に終結した演習機。

## 大正14年10月

1(木)●ライプチヒ大学、身体訓練研究所を設置。
●第二回国勢調査。初の失業統計調査も実施。

2(金)●外務省、上海の五・三〇事件全面解決と発表。

3(土)●日本・オーストリア、通商追加協定に調印。

4(日)●日本労働総同盟全国大会、開催。

5(月)●ロカルノ安全保障会議開く(16日、英・仏・伊・独ら七ヵ国がロカルノ条約に仮調印)。

6(火)●女工のための「親隣館」夜学校、第一回卒業式。

7(水)●綿織物の輸出は年内に五億円突破、と新聞に。

8(木)●東京府の環状線道路と放射線道路計画決定。

9(金)●伊勢湾の海陸連合演習で発動機船転覆、行方不明三十余人。

10(土)●仏交換使節のジルマルシェックスが帝国ホテル演芸場でピアノ独奏会。

11(日)●帝展の洋画部入選作発表、新人二六人が入選。

12(月)●モスクワで独ソ通商条約調印。

13(火)●大阪社会事業連盟創立。

14(水)●シリアのダマスカスで反仏暴動(18日、仏軍が同市を砲撃するが、鎮圧に失敗し撤退)。

15(木)●京城(現・ソウル)に朝鮮神宮創建、鎮座祭。
●小樽高商の軍事教練での朝鮮人暴動想定が問題化。朝鮮人・学生らが抗議(小樽高商事件)。

16(金)●テキサス州も教科書に進化論掲載を禁止。

17(土)●東京開催の極東熱帯医学大会、終了(12日~)。

18(日)●佐賀県基山村で小作が地主襲撃、三一人検挙。

19(月)●二〇年ぶりに早慶野球戦、復活。

20(火)●前々年検挙の朴烈・金子文子夫婦を大逆罪で起訴(11月24日、記事解禁)。

21(水)●ギリシャ、ブルガリアに侵入。両国軍、交戦。
●パウル・クレー、パリの展覧会に初出品。

22(木)●吉田茂、奉天駐在総領事に着任。

23(金)●大流行のクロスワード懸賞で、全員当選として送料実費を詐取する事件が続発、と新聞に。

24(土)●演劇「自由党異変」上演中止で帝劇一万円損害。

25(日)●ラジオが原因の幻聴患者が続出、と新聞に。

26(月)●東京で日本青年館、開館式。

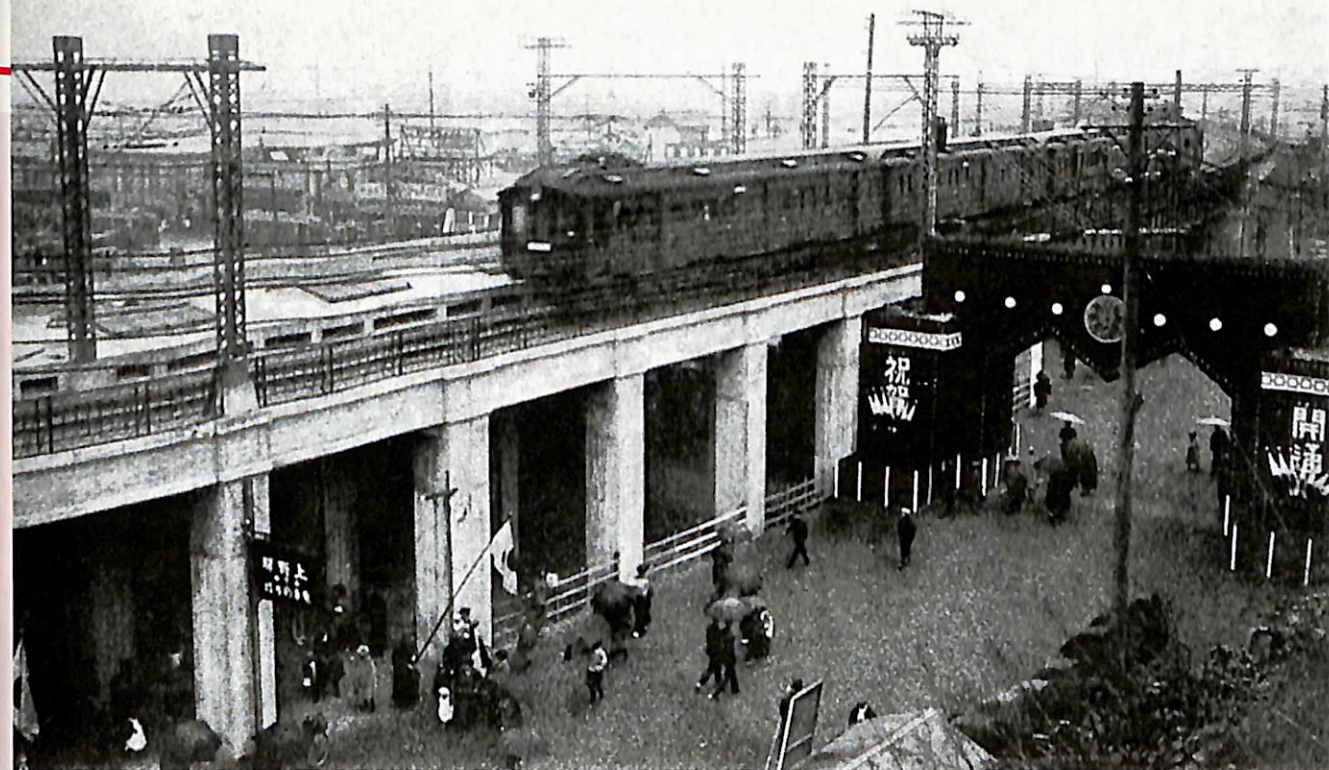
27(火)●財政不調のため仏パンルヴェ内閣、総辞職。

28(水)●横浜港の大桟橋が完成、落成式。

29(木)●税制調査会、所得税控除額などの改定を決定。

30(金)●日本学術協会、安田講堂で発会式。
●スコットランドのジョン・ベアードが動く物体のテレビ放送を非公開で実験。

31(土)●名古屋放送局、第三師団の天長節祝賀閲兵式を初めて実況中継放送。

▲**第1次大戦7周年(11月11日)** 休戦した1918年11月11日午前11時を刻むロンドンのホワイト・ホール休戦記念碑の前で、2分間の黙禱がささげられ、会場は群衆で立錐の余地もないほどだった。

「国際画報」

▲**山手線環状運転スタート(11月1日)** 神田―上野間の高架線が開通。秋葉原、御徒町2駅を新設。あわせて東海道本線と東北本線が直結し、東京の交通事情が大きく変わった。

▼**失業者たちの「退園式」(11月6日)** 大阪市では職を優先的に与える「労働者登録」を開始。市、警察署が失業者の溜まり場、中之島公園や天王寺公園に出張し、彼らにうれしい「引導」を渡した。

「写真通信」

▶**朝香宮鳩彦(38)、4年ぶり帰国(12月11日)** パリに3年間留学、アール・デコに魅せられ、後に東京都庭園美術館となる洋館を昭和8年に建設。同妃(すぐ右)は明治天皇第8皇女・允子。

「写真通信」

▲**皇族専用駅できる(11月)** 皇族が鉄道を利用する場合、東海道方面は東京駅、東北方面は上野駅を出発駅としていたが、警備の都合と一般客への影響から、山手線原宿駅に専用駅を新設。

「写真通信」

▶**浅草仲見世、震災から復興(11月16日)** 新雷門を、浅草寺大僧正らが祝いの初くぐり(写真左下隅)。待機していた群衆が真新しい総朱塗り2階建て、回廊風の新仲見世へなだれこんだ。

「写真通信」

## 大正14年11月

1(日)●東北本線神田―上野間の高架線開通により、山手線電車の環状運転が実現。
●独共産党全国協議会で、極左派が排除される。
2(月)●震災で焼失の米大使館再建のため設計家来日。
3(火)●東京府農会と市主催で府下の産物を網羅し即売する産業共進会を上野で開催。
4(水)●香川県竜川村金蔵寺で小作争議、三八人検挙。
5(木)●伊ファシスタ党政権、社会主義政党解散命令。
6(金)●工業所有権保護に関するパリ同盟条約に調印。
7(土)●蓑田胸喜・三井甲之ら原理日本社を結成し、「原理日本」を創刊。
●タバコ二割ほど値上げ。バット六銭が七銭に。
8(日)●東京市の村山貯水池が完成。
9(月)●独でナチスが「親衛隊(SS)」を創設。
10(火)●満州特産協会、工業クラブで創立総会。
11(水)●東京帝大生ら七生社結成、新人会と対立。
12(木)●伊・米間に戦債協定成立。
13(金)●中国の奉天派・国民党両軍に和平が成立。
14(土)●東京帝大に地震研究所、文部省に震災予防評議会を設置。
●パリでキリコら初のシュルレアリスム展。
15(日)●「読売新聞」、在京紙初のラジオ欄を創設。
16(月)●震災後改造の浅草仲見世が開店。
17(火)●全国商工業者大会、営業税全廃を決議。
18(水)●川崎の富士紡績工場で六〇〇〇人がスト。
19(木)●北京関税会議、中国関税自主権承認ならびに釐金(貨物運送に課した税)廃止を決議。
20(金)●独戦闘機隊の英雄、リヒトホーフェンの記念祭にヒンデンブルク大統領が参列。
21(土)●東京府連合教育会、中学入学試験全廃を決議。
22(日)●川本宇之介ら日本聾口話普及会を結成(口話式で聾学校・聾学級の設置進む)。
23(月)●日本スケート連盟設立。
24(火)●皇孫誕生にそなえ辰巳恒子ら二人の乳人発表。
25(水)●英、扇動罪で逮捕された共産主義者一二人に有罪判決。
26(木)●ドーズ米副大統領にノーベル平和賞決定。
27(金)●対米為替市場が四三ドル台に高騰。
28(土)●大審院、大学湯事件(屋号の無償使用)に老舗の屋号は保護すべきと損害賠償判決。
●ニューヨークに総工費五億六〇〇〇万ドルの新マディソン・スクエア・ガーデンが開場。
29(日)●総同盟、無産政党組織準備委員会から脱退。
30(月)●樺太石油利権に関する日ソ協定調印。



証言・あの日この日

### 西尾末広(34)

**3月28日(土)** 〈3月28日、大阪で中央委員会を開いた。関東同盟の望月源治君から、山本懸蔵、渡辺政之輔、杉浦啓一、辻井民之助、鍋山貞親、中村義明の六氏除名が提案された。その理由は「右の6名は日本共産党に属し、又はこれと通謀して常に党中党を作り、総同盟乗取りの陰謀をなし来たった者である。これらの人々の運動方針は、実質の伴わぬ狂激なもので総同盟の組合精神に背反する」ということであった〉(西尾末広『大衆と共に』)

3月、普通選挙法案が可決されると、日本労働総同盟の左右対立はますます激しくなった。従来の普通選挙に対する考え方を否定し、議会活動重視の穏健な現実主義路線に方向転換しつつあった西尾末広らは、この日、左派の共産党系の除名を試みる。が除名には失敗。総同盟は一層激しい左右激突の場となった。 (山崎行太郎)

毎日新聞社

▲**無産政党・農民労働党結成(12月1日)** 直前に右派・労働総同盟が脱退、大揺れの中で創立大会が開催された。しかしその日のうちに内務省から「国体と合致せず」と結社禁止が命令され、解散に。

▶**イランにパーレビ王朝(12月12日)** 無血クーデターで1921年、軍事独裁制を導入したレザー・ハーン(写真右)が、カージャール王朝に代わって国王に即位。ハーン(47)はトルコにならい、急速な近代化をはかった。

▶**「戦艦ポチョムキン」封切(12月24日)** モスクワのボリショイ劇場で、エイゼンシュテイン監督の不朽の名作が封切。モンタージュ手法による映像は、後の映画界に大きな影響を与えた。写真はポスター。

ユニフォト・プレス

▼**第1皇女・照宮成子、誕生(12月6日)** 摂政宮良子妃が初産。午後8時30分、号砲が響き渡り、東京市民の万歳の声がこだました。家々の軒に祝賀提灯が下がり、国旗が掲揚された。写真は宮城前広場で。

「写真通信」

「警視庁百年の歩み」

◀**「ピス健」逮捕(12月12日)** 潜伏先の神戸の小料理屋を300人の警官が包囲、女装して就寝中のところを逮捕。偽名の健次に由来する「ピス健」こと大西性次郎は前月来、東京、神奈川、大阪、京都でピストル殺人強盗を働き逃走していた。写真右は、凶器と変装用具。

## 大正14年12月

1(火)●農民労働党(書記長・浅沼稲次郎)、結成。内務省、治安維持法により即日結社禁止命令。
●京都府警、社研関係学生検挙のため京都帝大寄宿舎を家宅捜査、問題化(学連事件の発端)。
2(水)●東京・深川区の区議選で飲食供応の七人起訴。
3(木)●英、アイルランドと国境協定に調印。
4(金)●伊予鉄道電気会社、設立。
5(土)●東京控訴院、海賊船「大輝丸」事件の江連力一郎に懲役一二年。
6(日)●日本プロレタリア文芸連盟、演劇部を結成。
●皇太子妃、第一皇女・照宮成子を出産。
7(月)●政府、銀過剰対策に輸出解禁方針決定。
8(火)●白川義則関東軍司令官、張作霖・郭松齢両軍に満鉄付属地付近での戦闘に警告。
9(水)●内務省、工業都市と一六府県の失業者一〇万五〇〇〇人と発表。
10(木)●住友別子銅山で五〇〇〇人のスト。
11(金)●各損保会社、満鉄沿線に動乱保険を開始。
12(土)●イランにパーレビ王朝、始まる
●前月以来逃亡中のピストル強盗「ピス健」逮捕。
13(日)●東京―国府津間、大船―横須賀間の電化工事完了し、電気機関車運転開始。
14(月)●京都帝大学生大会、学生自治を決議。
15(火)●東京で遊覧乗合自動車の営業が始まる。
16(水)●国際連盟、モスル地方の油田地帯の大半をイラクに譲渡と裁定(トルコ、抗議)。
17(木)●トルコ・ソ連、中立不可侵条約に調印。
18(金)●ソ連共産党第一四回大会、開催。スターリンの一国社会主義理論、工業国化政策を採択。
19(土)●内務省、営利職業紹介事業取締規則を公布。
20(日)●英・伊がアビシニアの利権に関し書簡を交換。
21(月)●神奈川県鶴見町で工事の受注めぐり松尾組と青山組の土木作業員ら一〇〇〇人が大乱闘。
22(火)●日ソ漁業条約改定会議をモスクワで開催。
23(水)●国民党右派、北京の西山に会合し西山派結成。
24(木)●モスクワで「戦艦ポチョムキン」封切。
25(金)●日本フェビアン協会、解散。
26(土)●名古屋の劇場・新守座、焼失。
27(日)●最初の駐日ソ連商務参事官・ヤンソンが来日。
28(月)●東京・大阪が合同し、大日本相撲協会設立。
●インド共産党創立大会、カーンプルで開催。
29(火)●政友本党が分裂、鳩山一郎ら合同派は脱党。
30(水)●鶴見乱闘事件、親分衆の手打ち式で決着。
31(木)●伊で新聞の事前検閲制が成立。

# 俄楽多市（がらくたいち）

▲子どもたちに人気の新聞漫画「正ちゃんの冒険」にちなむ新年会のイベント。正ちゃんとリスがテーマ。

流行語

## 不況がもたらした自嘲

「お客大明神」。客にこびへつらうこと。不況が本格化するにつれ、商店主や営業マンは客の無理難題に、笑いながら我慢させられることが多くなった。そういう自分を「今日はお客大明神をやった」と自嘲気味に語ることが流行した。

「カルメン」。情熱的な女という意が転じたもので、不良少女のボスのこと。当時、東京では不良少女団が横行し、その数七〇〜一〇〇と言われた。中でも丸ノ内の女事務員を中心とした「ハート団」や、浅草の「観音組」などは、六〇人以上のメンバーを抱えていた。そのボスがカルメンと呼ばれた。

「私小説」。作家の身辺や心境を描いた小説で、「私」「僕」など、一人称で語られることからこう呼ばれる。私小説は田山花袋の「蒲団」（明治四〇年）以来、日本の文学の大きな流れとなっていたが、この年、久米正雄が「私小説と心境小説」という文章を発表して以来、広く使われるようになった。

「SS」。女学生用語で、二人の女性と同時に同性愛をすること、またはしている女性。同性愛を「S」と言い、それがダブっているという意味。

教育

## メートル法は家族制度の敵？

日本がメートル条約に加盟したのは明治一八年。大正一〇年には法律で採用が決まり、文部省が中心になって普及をはかることになった。ところが大正一四年四月、小学校でメートル法を教えることが決まった時に、肝心の文部省が腰くだけになってしまった。その理由がケッサクで、

「子どもたちに教えるのはいいが、おとなの知らないものを子どもが知っているのでは親の威厳にかかわり、ひいては国体の根本である家族制度の崩壊につながる」

というのである。その結果、メートル法が採用されるのはそれから三四年も後のことになった。（「週刊読売」昭和三三年三月[illegible]日号）

◀岡本一平が描いた「普選早わかり」。この年、普選法が公布され、二五歳以上の男子に選挙権が与えられた。

日本漫画資料館提供

## CM100年

新聞CM「JOAKこちらは東京放送局であります……中将湯」（津村順天堂・ツムラ）

JOAK

こちらは東京放送局であります

中将湯

ツムラ喫茶部とラヂオの設備

津村順天堂

ツムラの喫茶部

▲この年、東京・大阪・名古屋の3局でラジオ放送が始まり、それに便乗したCMが。

レジャー

## やって来たフランス人形ブーム

フランス人形の始まりは大正一四年頃、フランス帰りの人形研究家・上村露子が、西洋帽子の製法と日本のおかめの面とから思いついて、フランス調の布製マスクを使って西洋風な人形に仕立てたもの。これを〝フランス人形〟と名づけて、東京・銀座の伊東屋から売り出したのが始まりとされている。この新しいハイカラな名称が若い女性たちに喜ばれ、ことに女学生の間では人形作りが盛んになり、「大東京女学生制作お人形展」（日本橋・三越）なども開かれた（斎藤良輔『昭和玩具文化史』）

GK道具学研究所提供

▶病原を媒介する蝿の駆除は、この頃の大きな課題。ガラス製蝿取器も登場した。



三面記事

## 〝貸間あり〟は女文字で

帝大生に部屋を貸したいと希望する向きは多い。帝大学友会の共済部によると、貸間提供者は約五〇〇口にのぼり、これは必要数の五、六倍と言う。理由は言うまでもなく、未来の学士様に情をかけ、あわよくば養子に……という魂胆。提供者の申し込みの三分の二以上が、きれいな封筒にやさしい女文字で書かれており、中には肉体の関係を暗示するものも少なくない。そのいくつかを紹介すると――、

「私方、主人は始終旅行中で、毎夜私一人です。六畳の離れを安く提供します」

これは孤閨の寂しさを訴えたもの。妹が美人であることや、ピアノもあることを強調した文面もある。

「私と妹の二人暮らし。家広くして寂し。下宿代などどうでもよし、妹は美人なり」

「当方、今年二七の女主人にて、二一と一九の妹の三人暮らし。妹二人は一定時間ピアノの稽古をすれど、お勉強の妨げなら止めさせるも可」

共済部では申し込みがあると、調査員が調べに行くが、調査員を帝大生と間違え、いきなり誘惑してくる女性もいるという。（「読売新聞」六月一六日）

「写真通信」

▲初来日のアメリカ女子野球チームが10月19日、横浜に入港。選手13人、投手のカーシスは左投げ。

社会

## 退廃ムードを断てと京都で〝悪魔の葬式〟

〔京都発〕三月一日夜、京都の有志によって〝悪魔の葬式〟が行われた。世にはびこる退廃ムードを断とうというもので、先導者は〝悪魔を葬れ〟と大書した白いのぼりを持ち、その後にサイコロと酒の一升瓶を掲げたものが続く。さらに春画や猥写真に娼婦の写真、酒、タバコ、花札などを詰めこんだ棺をかついだグループが従う。一行はバー街や祇園などで退廃退治の演説を試み、それらを今、この棺の中に捨てるように勧めた。一行は繁華街をひとまわりした後、四条河原でこの棺を焼いたが、見物人の中からは「あの棺をそっくりほしい」という声も聞かれた。（「風俗研究」四月号）

## はやり歌

### 証城寺の狸囃子

作詞 野口雨情
作曲 中山晋平

証　証　証城寺
証城寺の庭は
ツ　ツ　月夜だ
皆出て来い来い来い
己等の友達ァ　ぽんぽこぽんのぽん

負けるな　負けるな
和尚さんに　負けるな
来い　来い　来い来い来い来い
皆出て　来い来い来い

証　証　証城寺
証城寺の萩は
ツ　ツ　月夜に花盛り
己等は浮かれて
ぽんぽこぽんのぽん

日本近代文学館提供

▲「金の星」大正14年1月号に詩が発表され、同年4月発行の『金の星集（9）』で曲がつけられ、以後よく歌われるようになった。

### 出船の港

作詞 時雨音羽
作曲 中山晋平

ドンとドンと〳〵　波のり越して
一挺二挺三挺　八挺櫓で飛ばしゃ
サッとあがった　鯨の潮の
潮のあちらで
朝日はおどる
エッサエッサ〳〵　押し切る腕は
見事黒がね　その黒がねを
波はためそと　ドンと突き当る
ドンとドンと〳〵　ドンと突き当たる
風に帆綱を　きりりと締めて
梶を回せば　舳先はおどる
おどる　舳先に　身を投げかけりゃ
夢は出船の
港へ戻る

福田俊二提供

◀「キング」九月号に発表、藤原義江の歌で昭和三年、ビクターからレコード発売されて大ヒット。原詩の「越して」を「越えて」と歌ったためそのまま定着した。



事件

## 元凶はクロスワード　アメリカの殺人事件

〔ニューヨーク発〕当地のブルックリンに住む男が妻を射殺した。その理由が変わっていて、男はクロスワード・パズルを解いていたが、どうしてもわからないので妻に助けを求めた。しかし妻が相手にならなかったので、かっとなったのだという。ところがこの男、その後もパズルに熱中、やはり解くことができないというので、自分の頭をぶち抜いて死のうとしたが、弾丸がはずれて苦しんでいるところを発見された。（「東京朝日新聞」一二月一二日）

「写真通信」

▶女子の体育・運動熱がますます旺盛になり、追羽根を競技化した「ハネゲーム」が登場。東京・麹町高等女学校で。

◀一二月一七日、ドイツ大使館サロンで「音楽と舞踊の夕」が開かれ、尺八と琴に合わせてギリシャ舞踊が披露された。

「写真通信」

この年の初もの

## 国産マネキン人形 京都で製作

●グライダー（複葉式）　群馬県高崎市の馬場源八郎が製作し、試験飛行に成功。

●ネオン　八月、白木屋大阪店に設置。一カ月後、火災の危険があるとして撤去させられたので、東京・日本橋の本店に設置。

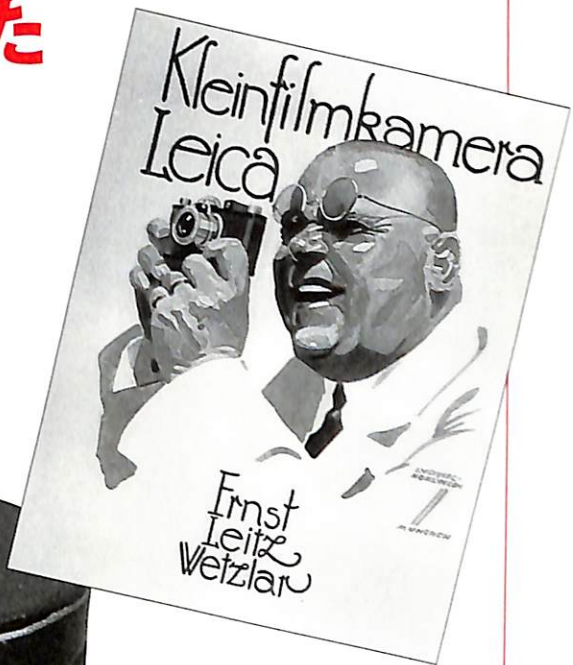
●ラジオドラマ　七月、東京放送局（現・NHK）が、「大尉の娘」を放送。

●デパート屋上の動物園　東京・銀座の松坂屋にオープン。

カメラの革命！ 大型全盛期に携帯機が登場
日本人ファン第1号は石原莞爾だった

# 「ライカ」誕生！

## ——その〝神話〟と愛好者たち

「カメラには二種類ある。すなわちライカとライカ以外のカメラだ」というフレーズを産み、今や工芸品となったかの感があるライカ。と同時に近代カメラの始祖でもあるライカを、初めて日本に持ちこんだのは、ナポレオン一世とフリードリッヒ大王の研究のためドイツに留学していた陸軍軍人・石原莞爾であった。

▲初期のライカの広告の中でも、最も有名なポスター。
Leica Camera AG／デジタルハウス

◀1925年、最初に発売された「ライカⅠ（A）型」。1936年までの11年間に、5万9014台が生産された。

日本カメラ博物館提供

### ライカの産みの親は小柄なカメラマニア

一九二五年四月、ドイツのライプチヒ見本市に出品された「ライカⅠ（A）型」は、吟味された高品質の原材料を使って、むだのない姿形、ほどよい大きさと重さ、バランスのよさ、シンプルな機構など目新しい意匠が凝らされ、見るものの目を奪った。当時がガラス乾板使用の大型蛇腹カメラ全盛期ということを考えると、〝革命的〟と言えるほどの逸品だったが、ライカに対する評価はかならずしも高かったわけではない。今ではごく普通の三五ミリフィルムを使用する小型カメラの市場がまったく未知だったため、販売店が半信半疑だったのだ。

後に「満州事変」の主謀者となる石原莞爾大尉（三六）がベルリンの行きつけの写真店、フォト・ザグゼでライカを買ったのは、二年間のドイツ留学を終え、帰国間近になったこの年の八月である。

「お求めになるのは見合わされた方がいいですよ。このカメラは距離計を売るために作られたもので、大したものではありません」と店員から忠告されたという。

それでも石原が購入したのは、軍人としてではなく、私人としての興味からだった。石原は、ナポレオン一世などを描いた絵画のコレクターとして有名だったが、入手後はどこに行くにもライカをたずさえたほどの写真好きでもあった。第一次世界大戦の敗戦によるドイツマルクの下落は、軍人の給与で高価なライカの購入を可能としたのだ。

石原をはじめ、その後数多くの熱烈な信奉者を獲得するライカ誕生までの経緯について語るのは、日本カメラ博物館副館長の酒井修一氏である。

「ライカの産みの親は、一九一一年にエルンスト・ライツ社に入社したオスカー・バルナック（当時・三二歳）です。無類の写真好きだった彼は何としても、自分が操作しやすいカメラがほしかった。バルナックは小柄で身体が弱かったため、当時の大型で重いカメラは負担が大きすぎる。自分の手におさまり操作しやすい理想のカメラを作りあげていった結果が、従来のカメラの常識を破る形態となったのです」

バルナックは、一九一三年、後に「ウル・ライカ」と名づけられたライカの原型を二台作るが、経営者のライツ一世の無関心と、第一次大戦勃発で、製品化は頓挫する。ライカが日の目を見るのは一九二三年、ライツ二世の代になってからである。この年、「ウル・ライカ」に改良を加えた量産試作カメラ「ヌル・ライカ（0型）」が三〇台製造された。

ここからシリアルナンバーと言われる一連のボディー番号がつけられるようになり、以降、連綿として通し番号が打たれる。シリアルナンバーは、親・子・孫三代にわたって使用に耐える製品としてのライカの矜持の表れでもあろう。

この「0型」が製品化されて「ライカⅠ型」が誕生する。まだ三五ミリカメラの市場が未成熟な中で、ライツ社は一九二五年末までに八五七台を製造した。

▲ライツ社に保存されている、ライカの原型「ウル・ライカ」。

### 「二・二六事件」の際も小型の真価を発揮！

一九二九年（昭和四）八月一九日、ドイツの飛行船「ツェッペリン伯号」が、世界一周の途中で、霞ケ浦飛行場に着陸した。

船長であり飛行船の発明者であるフーゴ・エッケナーの胸に「ライカⅠ型」が吊るされているのが新聞などで報道され、ドイツの最新カメラは、日本で初めて脚光をあびた。もちろん、これがライカの日本初登場ではない。昭和元年にはライツ社日本代理店のシュミット商店に「ライカⅠ型」は入荷していたし、石原莞爾をはじめ、映画監督の五所平之助、小津安二郎、衣笠貞之助などが、すでにライカの愛用者であった。

映画人に愛用されたのは、使用するフィルムと関係がある。三五ミリフィルムはもともと映画用で、これを入手しようとすると撮影所で使う「千フィート巻き」という長尺フィルムに限られ、一人で使い切れる量ではなかった。ところが映画人は、映画フィルムの切れ端を利用できたのである。むろんフィルム入手難ばかりがライカの普及をさまたげたわけではない。

昭和四年、銀座にあった金城商会はショーウィンドーにライカを飾った。最新のレンズ交換式「Ⅰ（C）型」、標準レンズのエルマー五〇ミリF三・五、距離計、マガジン三個、格納ケース一式で二九五円。私大の授業料が年間一四〇円という時代である。ライカは高価格商品だったため、実需に結びつくことはなかった。

その後、渡辺義雄、木村伊兵衛、桑原甲子雄などの写真家がライカならではという作品を発表したが、ライカが注目さ

▲ライカの開発者、オスカー・バルナック（1879〜1936）。ライツ社研究室にて。

# モラエスが亡き妻の故郷・徳島で想い続けた“日本人”と鎮魂

――佐伯　修

ポルトガルの軍人で文学者のヴェンセスラウ・デ・モラエス（一八五四〜一九二九）が、神戸・大阪駐在ポルトガル総領事の地位も、同国海軍中佐の軍籍もあっさりと捨て、四国の徳島に住みついたのは大正二年七月、モラエス五九歳のことだった。

それから一二年、この年、彼は最後の著書『日本精神』を伊賀町の自宅で書き上げる。同書は翌大正一五年、ポルトガルで出版された。同書より。

「日本人の場合も、西洋人が考える範囲で、遠い昔の先祖のまつり、家族のまつりが各個人のすべての感情神経に、何よりも支配的に注射されていて、血管内の血をたぎらせている。亡き人々を祀って、親族や友人や現に死を考えている自分自身を、死から救いだそうとしているこの感情で、すべての者と自分自身に、あの世とこの世での光栄ある永生を信じて、明日死ぬために、今日生きているのだ！」（花野富蔵訳）

『日本精神』全体としては、モラエスは、日本人の「個人の無人称性（没個人性）」という心理的特性についてさまざまに論じており、先祖供養の風習も、その一例として取り上げられている。しかし、モラエスは、徳島へ来た当初から、死者への鎮魂というテーマに、こだわり続けてきた。大正五年に刊行された、徳島で書いた最初の著書『徳島の盆踊り』に、こんな記述がある。

「もうおそい、私は『ぼん・おどり』に背を向けて、心が沈み悲しくなって家に帰ります。……彼ら、これらの日本人はみな、自分たちの死者たちと霊的に接触してまだ間がなく、心たのしく幸せにあふれ、くつろぎ、踊っています。明日は、気持をとりなおしていつもの暮らしに戻るでしょう。私はちがいます。私は私の死者たちと接触しませんでしたし、誰も彼らについて何も私には話してくれませんでしたし、祭りに意識的に参加することはできませんでした。……（改行）それでも、我が友よ、私は、ここで彼ら、私の死者たちと親しい関係になれるのではないかという期待を、口には出さないまでも心に深く秘めて徳島に来たのです」（岡村多希子訳）

徳島は、モラエスにとって死別した妻・ヨネの故郷であり、ここで彼はヨネの姪・斎藤コハルとの間に子をもうけるが、コハルも子も、相次いで世を去った。以後、モラエスは、ほかの外国人とも交際せず、子どもや動植物を友に、隠者的な生活を送る。そして昭和四年夏、誰にも知られずに自宅で死んでいるのが発見されたのだった。

▶『日本通信』を次々とポルトガルで発表した。

れ、その真価を発揮したのは、昭和一一年二月二六日のことである。大雪の早暁の出来事であった。皇道派の青年将校が下士官・兵一四〇〇人を率い、政府要人を襲撃した。反乱部隊の取材に、当時の新聞社のカメラは大柄で目立ちすぎ、フィルム・カメラは没収、下手をすれば発砲される危険性があった。この事態に適応したのが小型カメラである。各社はライカの入手に狂奔した。その結果、反乱軍が本拠地としていた赤坂の料亭「幸楽」の状況などが迫力ある写真となって紙面を飾った。

「二・二六事件」の翌昭和一二年、「盧溝橋事件」が起こる。この時活躍したのもライカであった。従軍写真部員が連日の行軍をしのぐためには、軽量カメラが最適だった。ベトナム戦争で知られる報道カメラマンの沢田教一も、常に数台の「M型」ライカを首や肩から下げていた。有事にこれだけ活用されたということは、軽量、堅牢という利便性だけでなく、光学機器としても世界最優秀の折り紙つきだったからである。「ライカM3」を頂点として「黄金の五〇年代」を謳歌した西ドイツのカメラ業界だったが、一九六〇年代に入ると、急速に力をつけ低コストで切りこんでくる日本のカメラに抗しきれなくなっていった。

「ライカには技術的に追いつけなかった日本のカメラ・メーカーだが、エレクトロニクスの分野でトップの座を獲得しました。一方、ライカは、市場こそ奪われたが、工芸品としてユーザーに愛される別格のカメラとして生き残ることになったのです」（前出、酒井氏）

現在ライカは「M6型」の時代だが、価格はボディーのみで約三〇万円、中古価格は一六万円くらいからという。

▶沢田教一。日本を代表する報道写真家。「M3型」で撮った「安全への逃避」が一九六六年ピュリッツァー賞を受賞。

▲アンリ・カルティエ-ブレッソン。フランスの写真家。ライカを愛用し、写真集『決定的瞬間』(1952年)で名声を確立。

▲ライカ「M3型」を構える木村伊兵衛。昭和5年以来、ライカにより数々の名作を発表、「ライカの木村」と称された。



# 往きて還らぬ

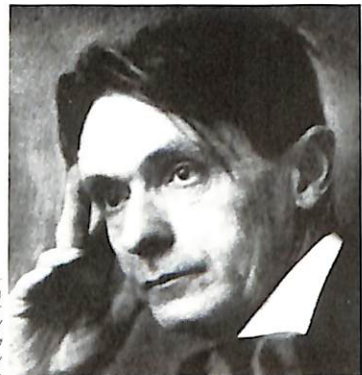
▲10月15日　古田大次郎(25)
社会運動家。大正13年福田雅太郎大将襲撃事件などで死刑判決、翌年刑死。著書『死の懺悔』はベストセラーに。

▲5月7日　B・サヴィンコフ(46)
ロシアの革命家。十月革命後は反ソ活動を行い逮捕、獄中で自殺。ロープシンの筆名で『蒼ざめた馬』などを執筆。

▲3月26日　米原雲海(55)
彫刻家。明治23年高村光雲の弟子となり、光雲の右腕と言われた。40年日本彫刻会結成。代表作「仙丹」「竹取翁」。

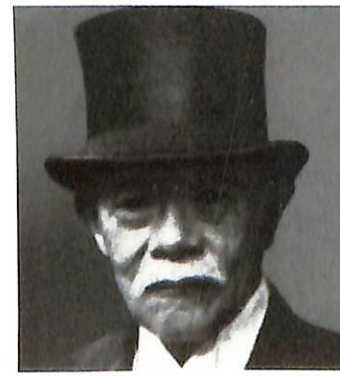
▲1月8日　植村正久(66)
明治から大正期のキリスト教思想家。明治6年受洗。『旧約聖書』の翻訳、讃美歌の訳詞などキリスト教普及に貢献。

▲12月4日　曽我廼家十郎(56)
喜劇俳優。明治36年五郎と曽我廼家兄弟劇を創始。日露開戦をあてこんだ喜劇「無筆の号外」が大当たりとなる。

▲6月10日　大町桂月(56)
明治期の詩人、随筆家。帝大在学中「帝国文学」に美文、新体詩を発表、赤門派と呼ばれる。酒豪としても有名。

▲3月30日　R・シュタイナー(64)
独の思想家。1913年精神科学を教授する自由大学、1919年子どもに自由教育を行うバルドルフ学校を創設。

▼2月15日　木下利玄(39)
明治43年志賀直哉(右端)らと「白樺」創刊。歌集『銀』『紅玉』など、白樺派唯一の歌人として活躍。右から二人目。

◀6月16日　矢島楫子(92)
教育者、婦人運動家。明治22年女子学院院長。明治19年、東京婦人矯風会創設、一夫一婦制、廃娼などを訴えた。

▲12月20日　E・S・モース(87)
米国の動物学者。明治10年東大教授に就任、大森貝塚を発見。陶器や民具を集めたモース・コレクションも有名。

▲9月25日　浜尾新(76)
教育行政家。枢密院議長。明治26年帝大総長、30年文部大臣。大正期には皇太子(昭和天皇)の教育も行った。

▲4月20日　久野久子(41)
ピアニストで、元東京音楽学校・日本女子大教授。ダイナミックな演奏で話題を呼んだが、ウィーンで自殺。

▲3月12日　孫文(58)
中国の革命家で、辛亥革命の指導者。明治28年の亡命以来たびたび来日、有力政治家・右翼と深い関係を持った。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第66号 6月9日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

# 1926［昭和元年］

●特集
大正天皇崩御と"元号誤報"騒動 幻の「光文」スクープ事件！／広い中庭に共同浴場や社交場つき！「同潤会アパート」のハイカラ生活／軍隊内の部落差別に糾弾闘争！「福岡連隊爆破未遂事件」のでっちあげ／二〇世紀の"女性の永遠の恋人"ルドルフ・ヴァレンチノ急逝！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…共同印刷争議起こる（1月19日）／「松島遊廓疑獄」発覚（2月28日）／「陸軍機密費横領事件」衆院で暴露（3月4日）／バード、アムンゼン、相次ぎ北極点上空を飛行（5月）／十勝岳が大噴火（5月24日）／人見絹枝、走り幅跳び世界新（8月28日）／米紙、レーニンの遺書を掲載（10月18日）

●人物クローズアップ
最後の元老、西園寺公望の"限界"

●決定的瞬間
ゴダードのロケット実験成功！

●美の出会い
棟方を開眼させた川上澄生「初夏の風」

●女たちの肖像…「朴烈事件」金子文子の自殺／勝者・敗者…高石勝男、獅子奮迅！／証言・あの日この日…若槻礼次郎、広津和郎／「現場」を歩く…多古町「鬼熊事件」の"実像"／20世紀博物館…世界の銀器館（東京）／外から見たNIPPON…作家・ハクスレーが出会った"まがいもの"

●ベストセラー…『佐藤春夫詩集』／スターと名場面…阪妻「乱闘の巻」、チャップリン「黄金狂時代」／モノ語り'26…「キンカン」「スモカ歯磨」



■既刊好評発売中（既刊65冊！ 1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九三〇年代
第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九六〇年代
第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第5号1963［昭和38年］ 第2号1964［昭和39年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第4号1970［昭和45年］

一九八〇年代
第60号1988［昭和63年］ 第61号1990［平成2年］

一九二〇年代
最新刊
第62号1921［大正10年］ 第63号1922［大正11年］ 第64号1924［大正13年］

■今後の刊行予定
▶第67号1927［昭和2年］6月16日発売
蔵相のひとことで"失言恐慌！"●芥川龍之介、自殺●「北京原人」、出土！●「英雄」リンドバーグ
▶第68号1928［昭和3年］6月23日発売
日本、五輪初の金メダル！●「満州某重大事件」●昭和の「即位大礼」●「ミッキーマウス」デビュー
▶第69号1929［昭和4年］6月30日発売
「東京行進曲」大ヒット！●昭和4年夏"疑獄の季節"●"昭和の軍閥"「一夕会」●米国「暗黒の木曜日」
▶第70号1930［昭和5年］7月7日発売
浜口首相狙撃と大失業時代●台湾「霧社事件」●夢の超特急「つばめ」●ガンジー、「塩の行進」開始！
▶第71号1911［明治44年］7月14日発売
平塚らいてうと「青鞜」創刊！●「特高」創設！●銀座にカフェー・ブーム●「モナ・リザ」盗難事件
▶第72号1912［大正元年］7月21日発売
明治天皇崩御と乃木大将殉死！●白瀬隊、南極探検●「新世界」と「吉本興行」●「タイタニック号」の悲劇



# ミニ事典
## 1925年のキーワード

### 穏田の怪行者事件
東京・千駄ケ谷の邸宅街・穏田の一角に住み「神のお告げ」で政財界に信用を得ていた飯野吉三郎の刑事事件。前年暮れに借金返済を迫った商人を執事らが暴行、検察は三月一一日、飯野を傷害教唆で起訴したが、糖尿病加療中のため取り調べができないまま昭和一九年、死亡した。飯野は「生き神様」とまでたたえられる一方、「あしたに神に仕え、夕べに女を口説く」と言われるほど、悪評も絶えなかった。

### 大大阪
周辺の東成郡と西成郡の四四ヵ町村を編入、拡張された大阪市のこと。四月一日誕生。人口が約二一一万人となり、東京市の約二〇〇万人を抜いて日本一の都市となった。昭和七年、東京市が隣接五郡八二ヵ町村を編入し、大阪市の倍を超える人口となるまで人口一位の座を保った。また、大阪港を通じてのさかんな交易で、繊維産業などの中心地として栄え、全国一の工業生産額を誇った。

▲大大阪記念博覧会が、3月15日から天王寺公園と大阪城で開催された。写真は正門入り口の雑踏。

### 宇垣軍縮
加藤高明護憲三派内閣の陸相となった宇垣一成が、五月一日から開始した陸軍軍縮。ワシントン会議、仮想敵国・ロシア帝国の崩壊、シベリア出兵失敗で起こった世論の軍縮要求などにより大正一一年から始まった、陸軍軍縮の第三次目にあたる。前二回に比べ、人員整理・装備近代化が鮮明になった。また、常備兵力削減を、学校教練実施や青年訓練所設置などによる戦時動員兵力の増加で補うという画期的なものだった。

### BCG（ビーシージー）
結核予防法に用いるための生ワクチン。仏パストゥール研究所のカルメットとゲランが、ウシ型結核菌を一三年間二三〇代も継体培養して生み出した。二人は前年七月からこの六月三〇日までの一年間、この頃には二四〜三二パーセントが結核で死ぬとされていた乳幼児二〇〇〇人にBCGを接種、一人の結核患者も出さないことに成功した。BCGは細菌の意の仏語と発見者二人の頭文字。

### 自動連結器
連結器同士を突きあてると、その頭部（ナックルと言う）がかみ合って、自動的に施錠できる仕組みの連結器。鉄道省は七月一六日、本州・四国の全機関車に取り付け作業を実施した。また、客車は七月一〜一〇日、貨車は一七日に取り付けを終えた。それまでの車両の連結器は、連結手が二〇キロもの錠を操作する螺旋・連環連結器で、死傷事故が絶えなかった。今日、電車、新幹線には密着連結器が使用されている。

▲7月17日、貨車に取り付けられる自動連結器。鉄道史上、画期的な出来事。

### スター・プロダクション
大正末期から昭和初め頃までの映画興隆期に、人気スターが主宰した映画プロダクション。略称、スター・プロ。この年九月に独立した「剣劇王」阪東妻三郎のほか、月形竜之介、市川右太衛門、嵐寛寿郎、片岡千恵蔵、沢村宗之助、入江たか子らのスターが、次々にプロダクションを設立。自前の撮影所を持ち、サイレント映画の名作と言われる数多くの作品を生み出した。

### 小樽高商事件
小樽高等商業学校（現・小樽商大）に配属された軍事教官が、一〇月一五日、「大地震発生時に無政府主義者が朝鮮人を煽動し暴動勃発」と、関東大震災時に横行したデマと同様の想定のもとに軍事教練を行ったため、朝鮮人港湾労働者、評議会系の労組員らが教官に謝罪を求めた事件。宇垣軍縮と並行して行われた学校教練実施が背景にあったため、教練反対運動の火が燃え上がった。

### 大衆文芸
純文学と一線を画す、娯楽を本位とする通俗文学、大衆文学。時代小説、探偵小説など。一〇月一一日、代表作『富士に立つ影』で著名な時代小説作家・白井喬二が中心になって、大衆作家の集まり「二十一日会」を結成、翌年には機関誌「大衆文芸」を発刊、「大衆」の語はにわかに普及した。白井によれば、それは「従来日本にはない仏語で民衆より広い意味を持たせたくて使った」という。

### 原理日本社
神がかり的な日本主義者で慶大予科教授の蓑田胸喜らが、「国体明徴」「教学刷新」などを掲げ、一一月七日に設立した右翼団体。機関誌「原理日本」を刊行。東京帝大、京都帝大などのリベラル派教授に対し言論・告訴攻撃を繰り返し、後の「滝川事件」や天皇機関説排撃にいたる道筋を作った。蓑田の攻撃は、河上肇訳『資本論』の誤訳を指摘して批判したように、一見、学術的だったため帝大生らにも支持者をふやした。

▶蓑田胸喜は、東京帝大在学中「興国同志会」を結成し、新人会に対抗した。

### 地震研究所
地震に関する諸現象の科学的研究と地震に起因する災害の予防・軽減方策を探求する、東京帝大の付属研究所。一一月一四日、勅令により設置。物理学的、地球物理学的立場に立った研究がめざされ、震災予防についての重要事項の審議などは、文部省に新設された震災予防評議会が行った。昭和四〇年からは、地震予知にも積極的姿勢を見せている。

### 一国社会主義理論
スターリン・ソ連共産党書記長が、一二月の第一四回党大会で唱えた主張。第一次世界大戦後のヨーロッパの革命運動の沈静化を背景に、国内建設重視を打ち出し、世界同時革命を強調するトロツキー、ジノビエフと対立した。ロシア革命初期の普遍主義的展望の後退は、コミンテルンによる各国共産党の指導に大きな影響を与え、後のソ連離れ、共産主義勢力分裂の原因を作った。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1925
CONTENTS




●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）・渡邉裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーシ…
ヨンハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
結城順一 吉田忠正
●写真協力
乙咩雅一 沢田サタ 但馬一憲 田沼武能 福田俊一 牧野登希子
朝日新聞社 「イリュストラシオン」 NHKサービスセンター
オリオン・プレス 京都新聞社 くれせんと 国際フォト COR…
BIS BETTMANN デジタルハウス PPS 平凡社 毎…
日新聞社 ユニフォト・プレス
日本IBM 人間プロダクション 富士銀行 マツダ映画社 LE…
ICA CAMERA AG
茨城県近代美術館 NHK放送博物館 大阪市立近代美術館建設準…
備室 大宅壮一文庫 お札と切手の博物館 国立公文書館 国立国…
会図書館 三康図書館 GK道具学研究所 松竹大谷図書館 日仏…
会館図書室 日本カメラ博物館 日本共産党 日本近代文学館 日…
本漫画資料館 吉澤野球史料保存館

定価560円

雑誌 23713-6/16
Ⓛ 2001/1/1
T1123713060563



印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社